



敷田年
治標注

古事記標註

中卷之下

リ 5
1013
5

リ 5
1013
5



和 372 5
門 伊 5
號 018
卷 6

東 京 學 校

○大帶日子於
斯呂和氣天皇

古事記標注中卷之下

ハ後一景行と
謚奉まり御名

敷田年治謹注

の義を惣て稱
ちり○纏向式

大帶日子、於斯呂和氣天皇、坐纏

み大和国城上
郡卷向坐若御

向之、曰代宮、治天下也、此天皇娶

魂神社とある
此地く○日代

吉備臣等之祖、若建吉備津日子

宮、記傳、二、檜城
と云ふ、非、

之、女、名、針、間、之、伊、那、那、毘、能、大、郎、女、

城、字、を、古、ッ、シ、ロ
と訓めり例、

生御子、櫛角別王、次大碓命、次小

と、ま、き、を、ち、り、按
一祝詞式、

碓命、亦名、倭男具那命、次

代、を、禮、自、利、と
あま、バ、日、代、

倭根子命、次神櫛王

○古事記標注中卷之下

〇一

聖の借字して、稱たる宮号ちふべし。○若建吉備津日子ハ孝靈天皇の御子なり。○伊那毘能大郎女、伊那毘ハ播磨目の郡名にて、和名抄に、印南伊奈美と云。此郎女の事ハ、播磨風土記ニ詳なり。○櫛角別王ハ、奇津主とて別ハ我兄の約、此御子紀ニ見とす。○大碓命、小碓命、紀ニ一日、同胞雙生、天皇異之、則語於碓。故因號云々。○倭男具那、紀ニ童男、此云鳥具奈とあり、上代童男の稱あり。と聞ゆ。○倭根子命ハ、は稱ハ、天皇の外、申さぬ事なり、いぶら。○神櫛王の櫛ハ、櫛なり。○又娶ハ尺、入日子命之女、八坂之ハ尺、入日子命ハ崇神天皇の御子なり。○若入日子命、生御子、若帶日子命、次帶日子命ハ御父ニ對ち、御名ちり。○五百木之、入日子命、次五百木之、入日子命、次五百木之、入日子命、記傳ニ五百木ハ、百磯城と云、の類の、稱名かと云、案ニ五百城とて、城の多かる意以て、稱ちり。御名ちり、百磯城とい異なり。○押別命、押ハ忍とて、稱名、以上入とあり、兄弟の、イロと云。

○又妾、紀小妃又婿を、ミメとよめり、御女ハ○豊戸別王、記傳ニ戸を速の意、ふやと云り。○沼代郎女、沼代ハ地名あり。大鳥郡野代村あり。○沼名木郎女、崇神天皇の御子、沼名木之入日子命なり、彼処ニ注せり。○香余理比賣命、紀ニ藤依姬と作り、名義詳あり。○若木之入日子王、御叔父、同御名なり。○百備之兄日子王、記傳ニ吉備國ニ由り、御名ふやと云り。○高木比賣命、木ハ君子とて、稱名、地名ハ山城志、綴喜郡高木村なり、此地ニ由り、御名なり。○弟比賣命、字の如し。○日向之美波、又娶、日向之美波、迦斯毘賣、日。

一〇東西も、ニ
 シヒムスシ
 命者、平東西之荒神、及不伏人等
 也、次櫛角別王者、
 確命者、
 木國之、
 古宇陀、
 日向國、
 造之祖、
 景行天皇皇子
 息長彦人大兄、
 磯城命之後也、とあり、これハ甚紛らるゝれど、茨田連ハ、神八井耳命ノ御末
 志、
 守君、
 紀、
 大、
 確、
 皇、
 子、
 云、
 々、
 封、
 美、
 濃、
 是、
 躬、
 毛、
 津、
 君、
 守、
 君、
 二、
 族、
 之、
 始、
 祖、
 也、
 あり、和名抄ハ、信濃國佐久郡、茂理郷あり、隣國ニ涉り、氏人ノ遺りとむ〇大
 田君ノ、大田ハ和名抄ハ、美濃國大野郡、大田郷あり、又安八郡あり、大田郷あり
 〇嶋田君、和名抄ハ、尾張國海部郡、嶋田郷あり、〇木國之、酒部阿比古、續紀廿六
 二、酒部公、家刀自と云、人たり、紀伊國人之、阿比古ハ、尸子ニ注あり、〇宇陀酒部
 宇陀ハ大和國ノ郡名、酒部ハ、職員令造酒司ハ酒部六十人、掌供行醜とあり
 〇日向國造、國造本紀ハ、輕嶋豐明朝、御世、豐國別皇子、三世孫、老男定賜國造

〇三野國造、上
 小見也、〇神大
 根王、紀ハ神骨
 小作きり、名義
 ハ此記ノ字ノ
 如、即彦坐王
 ノ御子、〇兄
 比賣、弟比賣、字
 ノ如、〇令經
 長眼記傳ハ長
 眼トハ、心ヲ著
 して、久しく居
 たり、云と云、
 三野之宇泥須
 和氣ノ、宇泥須
 ハ地名あり、
 美濃國人ト
 問、
 和氣ハ
 賣、生子、押黑之、兄日子王、野之、
 勿、
 督、
 而、
 惚、
 也、
 故、
 其、
 大、
 確、
 命、
 娶、
 兄、
 比、
 是、
 天、
 皇、
 知、
 其、
 他、
 女、
 恒、
 令、
 經、
 長、
 眼、
 亦、
 求、
 他、
 女、
 人、
 詐、
 名、
 其、
 孃、
 女、
 而、
 貢、
 上、
 於、
 大、
 確、
 命、
 以、
 喚、
 上、
 故、
 其、
 所、
 遣、
 大、
 確、
 命、
 二、
 孃、
 子、
 其、
 容、
 姿、
 麗、
 美、
 而、
 遣、
 其、
 御、
 子、
 神、
 大、
 根、
 王、
 之、
 女、
 名、
 兄、
 比、
 賣、
 弟、
 比、
 賣、
 於、
 是、
 天、
 皇、
 聞、
 看、
 定、
 三、
 野、
 國、
 造、
 之、
 祖、
 根、
 王、
 紀、
 ハ、
 神、
 骨、
 小、
 作、
 き、
 り、
 名、
 義、
 ハ、
 此、
 記、
 ノ、
 字、
 ノ、
 如、
 即、
 彦、
 坐、
 王、
 ノ、
 御、
 子、
 〇、
 兄、
 比、
 賣、
 弟、
 比、
 賣、
 字、
 ノ、
 如、
 〇、
 令、
 經、
 長、
 眼、
 記、
 傳、
 ハ、
 長、
 眼、
 ト、
 ハ、
 心、
 ヲ、
 著、
 して、
 久、
 しく、
 居、
 たり、
 云、
 と、
 云、
 三、
 野、
 之、
 宇、
 泥、
 須、
 和、
 氣、
 ノ、
 宇、
 泥、
 須、
 ハ、
 地、
 名、
 あり、
 美、
 濃、
 國、
 人、
 ト、
 問、
 和、
 氣、
 ハ、
 賣、
 生、
 子、
 押、
 黑、
 之、
 兄、
 日、
 子、
 王、
 野、
 之、
 者、
 宇、
 〇、
 古、
 事、
 記、
 標、
 注、
 中、
 卷、
 之、
 下、
 〇、
 四、

尸あり ○牟直 泥ニ須ス和ワ 亦娶マタ弟比賣ヒメ生子ウミマシ押黑オシ弟コト
都、紀不身毛津氣ツギ之ノ祖ソ 抄、美濃国郡 日子王ヒコ君ミコ等コ之ハ倭ム祖イダ 都ツ
名、武藝、牟直と注す、叔御兄弟の、押黒の
押り、忍ふて黒と、御顔の黒きを云々

○田部、安閑紀 此之御世、定田部、又定東之、淡水
倉、与毎国、田部、門、又定膳之、大伴部、又定倭屯家、
給貳抄手媛と 又作坂手池、即竹植其堤也
あはば、田部ハ 又作坂手池、即竹植其堤也
諸国ハ、何レハ 又作坂手池、即竹植其堤也
予を知べし、記傳ハ田部ハ、役々、屯家ノ御田を、佃らむ。料ハ定、置る。氏
ノ部々、と云り○淡水門ノ、淡ハ安房国ノ水門ハ、淡きり○膳ハ大伴部、記傳ハ
膳夫ノ多ク、其伴ノ廣キ由ノ、稱す、賜ハ膳夫部を、悉く率掌らむ。其部
ノ帥と、為ゆを云、と云、○屯家ハ、御家ノ、諸国ハ別ハ、朝廷ノ御田ありて、其
稻を收置く、処ノ名ハ、三宅とも、屯倉とも書り、韓國を、移居國と云、
も武官家と云、義あり、大和志ハ、城下郡ハ三宅、原あり○坂手池、大和志ハ、城下

郡ハ、坂手村あり、万葉三ハ、鳥網張
坂手ヲ過、と云、ハ此地あり

○汝兄いづき スノ 天皇詔小碓命、何汝兄、於朝夕之
の王ありむ御 大御食不參出來、專汝泥疑教覺、
名ありしと云、 泥疑ハ豊後 泥疑ニ字以如此詔、以後至于五
まば知、ダ、 風土記ハ、音下、效此、如此詔、以後至于五
をよみり俗ニ 太儀ふぐと 日、猶不參出、爾天皇問、賜小碓命、
云、ふ、おむと、 何汝兄、久不參出、若有未誨乎答、
るべし、○朝署 白既為泥疑也、又詔如何、泥疑之、
記傳ハ、署、字ハ 曙、偏を省々 答、白朝署入廁之時、持捕搯批而、
ろくと云、り、○ 持捕ノ、持、字ハ 待ノ、誤あり、と、
おもはゆ、ゆ、ハ 引、闕其技、裏薦投棄、

○古事記標注中卷之下

よき改、フ○技ハ借字めて肢也、
和名抄、肢、四體也、和名衣太

○熊曾ハ、上卷
ニ注サ、御
於是天皇、惶其御子之、建荒之情

髮結額、崇峻紀
の細注、古俗
而、詔之西方、有熊曾建二人、是不

年少、兒、年十五
六、間、束髮於額、
伏、死禮人等、故取其人等而遣當

十七、八、間、命、為
解子、今亦然之、
此之時、其御髮、結額也、爾小碓命、

と、り、其結、ハ
給、其姨、倭此賣命之、御衣御裳、以

如、一、と、之、○姨
和名抄、父之、
劍納于御懷而、幸行

姉妹、為、姑、和名乎波とあり、紀傳、小母の意と云、り○御裳ハ、腰、服、と、の、
記傳、倭比賣命、給、も、る、ハ、大御神の、御杖代、坐、ま、り、其、御、威、ふ、憑、給、ふ、と、
云、り、然、も、り、ハ、一、叔、此、後、ハ、兵、士、を、も、教、も、率、さ、せ、給、さ、る、ハ、上、ハ、引、關、其、技、ニ
云、の、強、猛、の、御、業、を、惶、し、み、ん、て、敵、中、ハ、棄、給、ふ、の、御、慮、が、ね、ふ、ハ、何、ハ、一、と、推、

量、奉、り、ぬ、然、る、ハ、次、ハ、自、其、姨、倭、比、賣、命、者、天、皇、既、所、以、思、吾、死、乎、と、詔、ひ、し、を、

併、思、ふ、べ、し、と、も、御、心、強、直、ふ、は、し、て、つ、と、き、御、功、を、立、給、ふ、を、感、さ、せ

給、ひ、し、も、亦、然、
る、べ、き、理、な、り、
故、到、于、熊、曾、建、之、家、見、者、於、其、家

○御室樂ハ、記
傳、御、字、を、新
邊、軍、圍、三、重、作、室、以、居、於、是、言、動

の、誤、ち、り、ハ、
と、云、り、樂、ハ、拍、
為、御、室、樂、設、備、食、物、故、遊、行、其、傍

上、の、切、り、て、酒
飲、て、手、を、拍、て
待、其、樂、日、爾、臨、其、樂、日、如、童、女、之

と、よ、む、を、云、頭
宗、紀、ハ、拍、上、賜、
髮、梳、垂、其、結、御、髮、服、其、姨、之、御、衣

吾、常、世、等、と、あ
り、伊、呂、波、字、類
御、裳、既、成、童、女、之、姿、交、立、女、人、之

抄、ハ、謠、字、を、ウ
中、入、坐、其、室、内、爾、熊、曾、建、兄、弟、二

タ、ゲ、と、よ、め、り
○酬、時、ハ、長、延
人、見、感、其、嬢、子、坐、於、已、中、而、盛、樂

○古事記標注中卷之下

次云、万葉十
故臨其酣時、自懷出劍、取熊曾之
衣衿、以劍自其胸、刺通之時、其弟
建見畏逃、出乃追至其室之椅本、
取其背皮、劍自尻刺通
あるに、日の高く見ゆに、程を云ふも、其へ轉たると、前後引くも、例どもを
見て、其義を知べし、風雅集におぼろふも、むらりの影へ、あがり、年々として
見ら、春の月の月、白氏文集十六、叔母年高、新婦、食ふと、惣て半を超越たるを
云、タケナハの、ナハも、字鏡、み、價、長也、奈波也、分志、よと、舛、細長之、負、奈波也、加余
と注せり、取合て、延の意、まゝを、知べし、神武紀、酒酣之後、吾則起歌と、ある
も、半過而後、まゝべし、字書、み、酣、飲酒未既也、とある、如し、如此云、る、也、え、ハ、記
傳、み、酣、を、宴、半、の、畧、まゝ、と、説、て、史記、高祖本紀、酒闌と、あり、注、み、云、々、此、闌、を
も、タケナハ、と、訓、る、ハ、酣、と、同意、と、心得、誤、まゝ、訓、る、る、べし、と、云、り、年、治、云、記、傳
み、ハ、如此、強、を、説、の、少、く、く、ぞ、る、ハ、姑、措、て、動、ハ、漢、籍、を、引、出、て、左、み、右、み、云、る
ハ、書、廣、き、や、み、見、ゆ、ま、と、大、方、ハ、字、書、み、引、く、る、を、抄、出、た、る、が、多、く、り、其、ハ、高

祖紀の酒闌、み、タケナハの訓、何の本を見ず、同紀、み、酒酣、自為、歌詩、と、あり、処、み
も、訓、ハ、洩、サ、リ、と、い、ま、記、傳、み、ハ、私、み、訓、を、附、て、引、出、た、る、を、み、是、を、助、て、宴
半、まゝ、と、為、し、も、日、の、た、ら、ま、を、み、ハ、い、う、ま、り、義、と、く、せ、む、○衣、衿、ハ、襟、み、て、裁
縫、ま、み、襟、より、下、処、を、オ、ク、ビ、と、云、是、コ、ロ、モ、ノ、ク、ビ、ま、り、○皮、劍、の、皮、字、ハ、以
の、誤、と、云、縣、居、翁、の、云、る、み、從、爾、其、熊、曾、建、白、言、莫、動、其、刀、僕、有
み、○意、礼、ハ、上、卷、み、注、せ、り、如、白、言、爾、誓、許、押、伏、於、是、白、言、汝、命
く、汝、と、呼、應、る、時、の、語、ま、り、上、者、誰、爾、詔、吾、者、坐、纏、向、之、日、代、宮、
街、意、礼、ハ、玉、よ、所、知、大、八、嶋、國、大、帶、日、子、於、斯、呂
り、次、み、ハ、天、和、氣、天、皇、之、御、子、名、倭、男、具、那、王
て、詔、ひ、し、意、礼、者、也、意、禮、熊、曾、建、二、人、不、伏、無、禮
之、心、を、着、て、見、聞、看、而、取、殺、意、禮、詔、而、遣、爾、其、熊
御、子、伴、信、友、が、聞、看、而、取、殺、意、禮、詔、而、遣、爾、其、熊

ヤマトタケル
ミコと訓、熊
曾建、對、たる
御名ふれ、然
よまむ、然
ふもと、紀、小
本武、皇子、小作
久、常陸、風土記
小、倭、武、天皇と
ありて、武、字を
タケルと、よ
たり、例、ふ、り、ま
バ、姑、舊、訓、ふ、從、ふ、○、熟、茂、和、名、抄、ふ、熟、茂、保、曾、知、と、あり、即、竟、落、ふ、て、今、の、真、桑、丸
あり、べ、○、振、折、の、折、字、は、振、の、誤、あり、と、縣、居、翁、云、り、熟、茂、の、ぶ、と、く、振、折、と、く
○、山、神、河、神、ハ、サ
山、ふ、も、川、ふ、も
荒、ぶ、の、神、の、あ
る、る、例、あり、
神、皆、言、向、和、而、參、上、

曾建、白、信、然、也、於、西、方、除、吾、二、人、
無、建、強、人、然、於、大、倭、國、益、吾、二、人、
而、建、男、者、坐、祁、理、是、以、吾、獻、御、名、
自、今、以、後、應、稱、倭、建、御、子、是、事、白、
訖、即、如、熟、茂、振、折、而、殺、也、故、自、其、
時、稱、御、名、謂、倭、建、命、

○穴戸ハ、長門、國、の、古、名、あり、記、傳、ふ、道、行、り、と、云、る、書、を、引、て、云、る、赤、間、の、關、と、
門、司、の、關、と、の、あ、も、ひ、一、つ、ふ、つ、と、あり、て、其、中、を、潮、の、通、ひ、を、皇、后、の、御、舟、通、り、
難、う、を、一、夜、の、日、ど、ふ、穴、戸、の、山、引、り、を、ま、ち、り、云、々、年、冷、云、長、府、と、下、關、と、の、
間、を、壇、浦、と、云、小、高、き、山、と、向、ひ、ハ、豊、前、國、早、鞆、浦、あり、今、見、る、ふ、平、地、ふ、ま、ば、其、
あ、も、ひ、地、接、て、潮、穴、より、通、ひ、一、跡、ハ、見、を、ず、
然、と、甚、狭、き、海、ふ、ま、ば、穴、門、と、云、り、あり、べ、

○結、友、を、ウ、ル
ハ、シ、ミ、と、あ、ま、
ど、其、を、心、愛、て
ふ、義、あり、て、友、を
結、ふ、り、ふ、み、限
ま、り、語、ふ、あり、
ざ、ま、ば、改、つ、○
赤、檮、用、明、紀、ふ、
赤、檮、此、云、伊、知
昆、と、注、せ、り、○
詐、刀、案、ふ、真、刀
小、對、て、キ、ダ、チ

即、入、坐、出、雲、國、欲、殺、其、出、雲、建、而、
到、即、結、友、故、竊、以、赤、檮、作、詐、刀、爲、
御、佩、共、沐、肥、河、爾、倭、建、命、自、河、先、
上、取、佩、出、雲、建、之、解、置、横、刀、而、詔、
爲、易、刀、故、後、出、雲、建、自、河、上、而、佩、
倭、建、命、之、詐、刀、於、是、倭、建、命、詭、云、

とよまひ外ふ
崇神紀ふ此
伊奢合刀、爾各拔其刀之時、出雲
件ふ全相類と
建、不得拔詐刀、即倭建命、拔其刀
古事を載せ、
彼処も、木刀
而、打殺出雲建
とありを對見
るべし、○沐り、崇神紀ふ、游沐をよめり、アミといひ水浴するふて、沐
字へ、符もざれど、古より書あつたり、○伊奢ハ率ふて、誘ふ言へ

○夜都米佐須、爾御歌曰、夜都米佐須、伊豆毛多
崇神紀ふ、柳句
毛多菟ふ作り、
同義ち、委も
上卷、夜幣賀岐
の御歌ふ注せ
り、○伊豆毛多
禊流賀も、出雲
建之、抑建と、其地み、猛勇の人を云、崇神紀ふ、出雲建と、見色ち、
出雲臣、飯入根と、云、人を云、上の熊曾建、紀ふ川上泉帥ふ作り、其名を取石

爾御歌曰、夜都米佐須、伊豆毛多
禊流賀、波禊流多知、都豆良佐波
麻岐、佐味那志爾、阿波禮、故如此
撥治、參上覆奏

鹿文、と傳、ちを見づ、此記神武、段ふ、八上建と云、其黨の多きを云、○波
禊流多知、佩る太刀あり、○都豆良佐波麻岐、黒葛清卷あり、物語書ふ、ま
やりと、云、語多し、清潔の意ふて、遊仙窟ふ、肝腹を、サハヤカと訓り、俗ふサツ
パリと、云、ふおあつく、美た、註あり、○佐味那志、阿波禮、ハ、真身無、鳴呼之
是ハ、歎息の辞ふて、木刀ふ保き、万葉ふ、劍太刀、身尔
副ふ、とよめ、身ハ、又み、此、佐味の味ふ、あ
○十二道ハ、十
二固ふて、上代
国を、道と云、
る例あり、○御
鉏友耳建日子
の鉏友ハ、懿德
天皇の御名の
下、注、り、○比
々羅木之、八尋
矛、續紀ニ、八
谷、梅、八尋、梓
根、と、可、是

爾天皇亦頻詔倭建命言向和平
東方十二道之荒夫琉神及摩都
樓波奴人等而、副吉備臣等之祖
名御鉏友耳建日子而、遣之時、給
比比羅木之、八尋矛、比羅三故
受命罷行之時、參入伊勢大御神

○古事記標注中卷之下

彼見返とまじ、
上代常ふ用ひ
一武器たりけむ、本草云、狗骨を配たり、此木を東国みして、オニヒラギと云、
技葉刺りて、十月ふ至ア、小白花を開き、香氣あり、常み終、字をよき人よ、
○神朝廷ハ、神の御門あり、神宮を云、○白者、
阿志氣比等奈里と、りるみ依てよき、此悪人を、マツロハ又ヒト、とよめり、
ハ非、今改メ、フ、○悪人、万葉廿ふ、布多富我美
ミカドヲ、即白其姨倭比賣命
者、天皇既、所以思吾死乎、何擊遣
西方之、惡人等而返、參上來之間、
未經幾時、不賜軍衆、今更平遣東
方、十二道之、惡人等、因此思惟、猶
所、思看吾既、死焉、患泣罷時、倭比
賣命、賜草那藝劍、音以、音亦、賜御
囊、而、詔若、有急事、解茲囊口、
○尾張國造、目造本紀云、志賀
高元總朝、以天
別天、火明命十
世孫、小止與命、
定賜目造とあ
り、○美夜受比
賣ハ、紀又尾張
氏之、女と記、
熱田縁起云、
稲種公之妹と
り、○相武ハ、
相摸ハ、相字を
サガとよむべ

然予あれど、若、然よほむ、ハ、不伏人、不奉人、不服人、麻都漏波奴人あど、書、ヘキ
此記の例ありをや、○草那藝劍ハ、ハ、僕遠呂智の、尾より出たり、大刀りて、名義
ハ、下ふ見ゆ、○急事、枕冊子、よ、つづとよ、のりて、めせ、ハ、ト
り、くり云々、字鏡集、ハ、此急、字を、トシとも注せり、ハ、同義之
○尾張國造、目
造本紀云、志賀
高元總朝、以天
別天、火明命十
世孫、小止與命、
定賜目造とあ
り、○美夜受比
賣ハ、紀又尾張
氏之、女と記、
熱田縁起云、
稲種公之妹と
り、○相武ハ、
相摸ハ、相字を
サガとよむべ

き由ハ、音韵啓蒙ハ、弁、おんり、○国造ハ、国造本紀ハ、相武国造、志賀高元穗朝、武
刺目造、祖神伊勢者、彦命、三世孫、茅武彦命、足賜、国造、と、りまど、其より、前ハ、既く
定りらむ、○道速振ハ、上卷

○道速振、荒振、国神と、りり

○看行と、見
ろ、予の行届く

於、是、看、行、其、神、入、坐、其、野、爾、其、國

意、み、見、備、を
延、て、ミ、ソ、ナ、ハ

造、火、著、其、野、故、知、見、欺、而、解、開、其

ス、と、云、上、ハ、轉、
て、ミ、ソ、ナ、ハ、シ

姨、倭、比、賣、命、之、所、給、囊、口、而、見、者

と、も、活、云、り、下
卷、ハ、斯、漏、多、聞

火、打、有、其、裏、於、是、先、以、其、御、刀、薙

能、蕪、豆、岐、蕪、耶
布、と、あり、も、袖

撥、草、以、其、火、打、而、打、出、火、著、向、火

着、備、ふ、ち、り、○
火、打、按、上、代

而、燒、退、還、出、皆、切、滅、其、國、造、等、即

を、中、昔、より、ハ、
火、ハ、燃、出、し

著、火、燒、故、於、今、謂、燒、遣、也

專火打と云、見、臣、初、て、其ハ、今、世、ハ、物、ま、り、如、く、石、と、金、を、打、合、て、火、ハ、出、し、
む、と、お、ぼ、し、き、を、此、御、世、の、火、打、も、お、あ、業、ふ、せ、し、り、詳、あ、り、也、但、蒲、黄、を、用、
る、ハ、後、み、て、其、う、ち、苧、麻、莖、等、の、炭、ハ、打、付、々、む、東、国、み、て、ハ、今、も、然、ま、り、る、也、○
苧、撥、草、是、ハ、御、傍、の、草、を、刈、拂、ひ、て、火、を、近、づ、け、め、ざ、る、也、紀、ハ、王、所、佩、劍、叢、雲、
自、抽、之、薙、攘、王、之、傍、草、と、あり、○燒、遣、の、遣、ハ、延、在、本、ハ、津、ハ、作、ま、り、を、是、と、す、式、
ハ、駿、河、国、益、頭、郡、燒、津、神、社、和、名、抄、ハ、同、国、郡、名、益、頭、を、末、志、豆、と、注、せ、り、ハ、燒、て、
ふ、を、忌、み、て、呼、易、ち、り、也、紀、ハ、日、本、武、尊、初、至、駿、河、云、々、と、り、て、其、跡、彼、国、ハ、在、
是、ハ、紀、を、正、し、し、り、て、此、記、及、古、語、拾、遺、ハ、相、武、と、傳、へ、ち、を、誤、り、と、せ、む、久、記、傳、
ハ、此、時、ハ、す、と、駿、河、と、云、ハ、大、名、ハ、あ、う、り、々、む、を、書、紀、ハ、後、ハ、念、ち、り、也、国、名、を、以、
て、記、さ、さ、る、物、也、と、云、り、此、説、ハ、脚、本、ハ、御、歌、ハ、相、武、の、小、野、と、も、お、ま、を、あ、り、
然、ル、ニ、崇、神、段、東、方、十、二、道、と、あり、也、記、傳、ハ、駿、河、を、も、十、二、国、ハ、數、合、せ、
久、尻、口、と、の、も、ざ、る、誤、也、記、傳、ハ、り、り、誤、り、を、り、り、心、り、て、見、る、也、
○走、水、海、ハ、相、
模、国、三、浦、郡、ハ、
て、此、地、東、ハ、上、
総、国、天、羽、郡、富、
津、ハ、向、ハ、其、間、
絶、一、里、ハ、足、
自、其、入、幸、渡、走、水、海、之、時、其、渡、神、
興、浪、廻、船、不、得、進、渡、爾、其、后、名、弟、
橘、比、賣、命、白、之、妾、易、御、子、而、入、海、

ざる海人、紀ふ中、御子者、所遣之政、遂應覆奏、將
可立跳渡云々、故時人、号其海、入海時、以菅疊八重、皮疊八重、絶
日、馳水也、とあり、久、此地ふ、走水、観音と云、物を
りて、往來の船を、守るゝ舟を、**是、其暴浪自伏、御船得進**
云、り、即弟橘比賣命ふ、を、穢き浮屠の、そのとせ、り、噴ろ、き業、く、く、東
國ふ、り、の、か、る、類、ども、あ、り、て、倭建命を、不動と、此比賣命を、観音と、ど、く、名を
負せ祭する、処、少く、く、ぞ、古、ふ、復、さ、は、ぬ、き、業、あ、り、ざ、や、○渡神の海神の○弟
橘比賣命の、紀ふ穂積氏、思山、宿禰之女とあり、弟も橘も、愛る意の、稱あり、○菅
疊、皮疊、絶疊、何
まも、字の如し、
○佐泥佐斯の、
相武ふ係る、枕
詞ふ、め、き、ど、詳
あ、り、ず、○佐賀

牟能表怒迹ハ、
相武之小野ふ
く○毛由流肥
能ハ、燃火之也
り○本那迦迹多知互ハ、火中ふ立て之○斗比斯岐美波母ハ、問一君をもみて、
火中ふ坐あ、り、も、我を問ひ、ひ、と、ま、り、万葉十一、ふ、不飽ハ、妹登、問師公、羽裳
とあり、ふお、な、ど、波母ハ、歎息の、辞、く、○御陵何地あり、む、知、が、ち、一、式、よ、上、総、目
長柄郡、攝神社あり、若、も、御櫛を、納め、地、ふ、り、り、ト、ク、又、江戸の、亀井、戸、ふ、吾
妻、森、あり、ま、ま、
其地、久、尋、べ、
○蝦夷ハ、蝦人
ふて、人、字を、シ
と訓、る、も、大、人
を、ウ、シ、と、云、る
の、も、あ、り、ず、俗
ふ、山、人、世、間、人
あ、り、の、人、あ、り、
其、も、飛、撥、る、も

後、其、后、御、櫛、依、于、海、邊、乃、取、其、櫛、
作、御、陵、而、治、置、也
爾、其、后、歌、曰、佐、泥、佐、斯、佐、賀、牟、能、
袁、怒、邇、毛、由、流、肥、能、本、那、迦、邇、多、
知、互、斗、比、斯、岐、美、波、母、故、七、日、之、
自、其、入、幸、悉、言、向、荒、夫、疏、蝦、夷、等、
亦、平、和、山、河、荒、神、等、而、還、上、幸、時、
到、足、柄、之、坂、本、於、食、御、粮、處、其、坂、
神、化、白、鹿、而、來、立、爾、即、以、其、咋、遺、
之、蒜、片、端、待、打、者、中、其、目、乃、打、殺、

の捷きを卑め
て云り、或説ふ也

鬚ありを以て、名づくると云きど、葡萄をエビツラと云る社、然も云め鬚の誰も
も、生ものをや、後エビスと云り、轉たると、叔記傳ふ、蝦夷の松前の奥あり、蝦
夷人ふて、人種異くと云り、事實を弁せざる、非事あり、神武紀の、御歌ふも、愛
詩鳥、毗儼利とありて、其愛添詩り、大和国より、獻奉り、八十梟帥を云き、何
處ふても、朝廷ふ、背奉まらざるを、上代より、蝦夷といふ、猶此蝦夷ふり、云べ
きるあれど、爰ふい略、○足柄の、相模国の郡名ふて、和名抄より、上下に分り
○御狼の、狼字を、古書等み、カレヒと訓ちる例を、見ざる、姑、記傳ふ、從ふ、舊訓
ハミヲシスル、トコロ、とよめまど、食御狼とふ、配難、○蒜、和名抄ふ、蒜、葦
菜也、和名比流、カレ、ノボリ、タチテ、ノ、サカニ、ナカニ、ナカニ、ノリ、ヒキ
とあり、○三歎、故、登立其坂、三歎、詔云阿豆麻波
字の儘ふよむ、夜、自阿下五、故、號其國、謂阿豆麻
べ、内宮儀式、也、即自其國、越出甲斐、坐酒折宮、
帳ふ、三遍音為、也、即自其國、越出甲斐、坐酒折宮、
豆發、令幸行ふ、之時、歌曰、邇比婆理、都久波表、須
ど、何、記傳ふ、此三字を、ネモ

疑、豆、伊久用加、泥都流

コロニ、ト訓き
と、然よまむ
ハ、三字を、書、ト、まを、や、紀ふも、三歎とあり、○阿豆麻波夜、紀ふ、吾孺者、耶と
あ、ガ、ゴ、ト、○謂阿豆麻と、足柄坂より、以東の国々を、云、後、東、字、ふ、
此訓を、配、て、よ、遂、本、義、ハ、失、ひ、て、東、と、云、通、も、て、云、ガ、多、う、紀、ふ、
此三歎を、登、確、日、嶺、而、と、あり、即、上、野、国、の、郡、名、確、氷、み、彼、郡、不、憐、う、吉、妻、郡、も
何、も、バ、此、古、事、ハ、紀、正、一、う、む、彼、確、氷、嶺、ハ、東、南、を、遠、く、見、遙、う、山、さ、り、と
ぞ、酒、折、宮、同、国、山、梨、郡、酒、折、村、り、名、義、を、求、む、べ、う、ず、○迹、比、婆、理、ハ、常
陸、国、郡、名、み、新、治、あり、○都、久、波、も、同、国、郡、名、み、筑、波、あり、同、国、風、土、記、筑
波、之、縣、古、謂、紀、国、美、萬、貴、天、皇、之、世、遣、采、女、臣、友、屬、筑、波、命、於、紀、国、之、国、造、時、筑、波
命、曰、欲、令、身、名、者、著、国、而、後、世、流、傳、即、政、本、號、更、称、筑、波、と、あり、玉、人
ハ、濁、音、フ、ツ、ク、バ、と、云、り、○伊、久、用、加、泥、都、流、ハ、幾、夜、う、宿、つ、ら、あり

○御火焼ハ、上
代も、脂松ヤリ
の、ものを焼
あり、日向国の
山中、ユ、て、ハ、今
も、然、り、○迦、賀
爾、其、御、火、燒、之、老、人、續、御、歌、以、歌
曰、迦、賀、那、倍、豆、用、邇、波、許、許、能、用、
比、邇、波、登、表、加、表、是、以、譽、其、老、人、

那倍豆ハ、記傳スナハチ即給東國造也

リ、此迦ハ、氣長くふと云、氣不通ふと云、リ○用迹波許々能用ハ、夜ふハ、九夜ふ
リ○比迹波、登表加表ハ、日ふハ、十日をふて、表ハ、歎息の辞ふリ○東國造ハ、何
其の國ありむ、詳ふりむ、扱目造を給、とのふてハ、穩あふりぬ、あふりすめまじ、
國造ハ、當時の職名ふまじ、其職ふ為、然よすむハ、論ふまきをヤ、舊訓も然
リ○科野之坂ヨリ自其國越科野國、乃言向科野之
ハ信濃國ふ名ヨリ坂神而還來尾張國、入坐先日、所
高き御坂ハ、記傳ハ、美濃國惠
奈郡ト、信濃
國伊那郡ト、越
リ國塚ウ坂ハ、
と云、リ○月經
ハ、月水ト、和
名抄ハ、佐波利
と注セリ○意
須比ハ、上ハ注

比之禰ス字意須比三著月經故見其
食之時其美夜受比賣之許於是獻大御
期美夜受比賣之許於是獻大御
坂神而還來尾張國入坐先日所
自其國越科野國乃言向科野之
高き御坂ハ記傳ハ美濃國惠
奈郡ト信濃
國伊那郡ト越
リ國塚ウ坂ハ
と云リ月經
ハ月水ト和
名抄ハ佐波利
と注セリ○意
須比ハ上ハ注

セリ○比佐迦月經御歌曰比佐迦多能阿米能

迦具夜麻斗迦麻通佐和多流久

毘比波煩曾多和夜賀比那袁麻

迦牟登波阿禮波須禮杼佐泥牟

登波阿禮波意母閑杼那賀祁勢

流意須比能須蘓爾都紀多知通

祁理

序あり○比波煩曾記傳ハ源氏ハ、むむやうむむつふどのの語を承出て、細く弱
く、撓む貞人と云、リ、まじ、利鎌ふて、刈と、杖の、細く、むむやうむむつふどのの意
あり○多和夜賀比那表ハ、婿腕をまじ○麻迦牟登波ハ、將、枕をまじ○阿禮波
須禮杼ハ、吾者雖為まじ○佐泥牟登波ハ、將、寢と、み、佐ハ、發語まじ○阿禮

波意母開杼ハ、吾者雖思之○意須比能須蘇尔ハ、簾之裾ユムリ○都紀多知述
祁理ハ、月水ヲツキタチと云々ハ、多知トハ、廻始ユト云テ、春立秋立ノ立ハ、
おふト云フべし此月水ヲ本草訓注ニ、ツキノモノト注シ、常ニ然云リ、然田
縁起ハ、阿佐都紀乃其止久云々、とありハ、朝月ノ如クユテ、都紀ハ、係
ル枕詞ノ如キ云状ナリ、然ニ記傳ハ、空ニ月を云ハ、其ハ花ノ散を、雪ノ
ユリ、と云ガ如ク、云リ、年治云、漢學始リテ後ハ、月を云ハ、雪花を云ハ、如ク、文
人ノ詠物トセシを見習ヒテ、歌ハ、むハ、同状ニ云ハ、云、天照大御神ノ御弟、
命ハ坐月ノ大御靈と云、月水ハ云、准ル、あど、
あるべくも云、古學モ、筆心得ハクベシ

○多迦比迦流、爾美夜受比賣答御歌曰、多迦比
ハ、高光アリ、日、
○比能美古ハ、迦流比能美古、夜須美斯志、和賀
日之御子ニテ、
日神ノ血統を、
意富岐美阿良多麻能登斯賀、
布禮婆阿良多麻能都紀波岐閑

○夜須美斯志
ハ、万葉ニ、安見
知之ト云、安
ら々々見そふ
と、知、
爾、都紀、多、多、那、年、余
辭考ニ云リ○和賀意富岐美ハ、我大君ナリ、扱大君トハ、天皇を尊奉リ、皇族ニ
涉リテ、申す稱アレバ、玉字をよみ、○阿良多麻能ハ、璣之、未磨ル、玉を、
砥ク意ユテ、年ニ係、云、月、云、轉、セリ、記傳ノ説ハ、いとトキ非事ナリ
○登斯賀布禮婆ハ、年之來經者ニ○都紀波岐閑由久ハ、月者盡往、万葉
十五ニ、月ハ、毛、伎倍奴、とあるハ、おあト、播磨風土記ハ、宗形大神、云、我可産之月
盡、故曰支閉、兵、とあるを見、○宇倍那宇倍那ハ、諸、あ、く、あり、万葉十三ニ、
諾々、各、母者不知、とあり、尤ト引納、る意ナリ○岐美麻知賀多ルハ、君待難、云、
是ハ、君を待テ、とク待得、ぬ、ハ、意ナリ○和賀祁勢流ハ、吾著有、云、○都紀多
多、那、年、余ハ、月水ハ、よ、ムテ、御襲ノ裾ノ、織、ま、つ、を、云、ハ、此、那、年、ハ、契、沖、も、論、お
ま、リ、猶、考、べ、し、一、首、ノ、意、ハ、契、お、ま、き、終、つ、る、ゆ、ハ、久、ハ、特、難、キ、御、思、ハ、ノ、増、上
ニ、ま、く、月、物、ハ、織、ま、つ、を、見、答、め、終、り、ハ、
愧、ハ、と、舍、り、終、り、甚、あ、ま、は、し、情、ふ、リ、

○伊服岐能山カレ故爾御合而以其御刀之草那藝コニ
之神式近江ツルギ國坂田郡伊夫オキ伎神社美濃國ミ劍置其美夜受比賣之許而取伊モトニ
不破郡伊富岐イ服岐能山之神幸行於是詔茲山コ
神社何此坂イを伊吹山と云ヤマニるありべし○
神者徒手直取而騰其山之時白トキニ
言舉ハ万葉多うし思ふ事シロキを聲ふ舉て言モトシつふを云○
而詔是化白猪者其神之使者雖カミ
水雨ハ字の如シロキし書紀ハ大雨モトシ火雨あどをよカミり是等水雨モトシ
の誤りありべし○
案ハ水雨ハ雨カミ者當言舉見惑也モトシ
因言舉見惑也モトシ

ゆとりし降るものみて、うしる時ハ必大雨あり也名抄ハ需字を比左
女とい注せり○正身ハ身實あり○當其神之云々記傳ハ當字をナリケムヲ
とよめまど然よむべき
字ハありねば從カ

○玉倉部天武紀ハ近江放精兵忽衝玉倉部邑とあり○居
寤清水詳き
ず伊吹山の麓
スリクバ近
江國坂田郡
醒井と云地
りて其所ハ
高き清水あり
此地ハ伊吹山
より尾張ハ赴
らバ居寤清水
ハ醒井とあり
○當藝野ハ美濃國多藝郡の野なり○當藝斯

故還下坐之到玉倉部之清泉以
息坐之時御心稍寤故號其清泉
謂居寤清泉也自其處發到當藝
野上之時詔者吾心恒念自虚翔
行然今吾足不得步成當藝斯形
自當下三故號其地謂當藝也

形、和名抄舟具、尾也、和語云多伊之、今按舟人、呼扱抄為船
師是、と、何、是、今のカチ、延、佳、も、記、傳、も、扱、の、形、と、云、う

○杖衝坂、記、傳、伊勢國、三、**自其地、差少、幸行、因甚、疲、衝、御、杖**

重郡、米、女、村、云、**稍、步、故、號、其、地、謂、杖、衝、坂、也、到、坐**

を、後、云、ヤ、ウ、ク、**尾、津、前、一、松、之、許、先、御、食、之、時、所**

と、云、ハ、稍、を、引、**忘、其、地、御、刀、不、失、猶、有**

出、て、ウ、を、加、え、**爾、御、歌、曰、袁、波、理、通、多、陀、通、牟、迦**

る、と、ヤ、ク、と、**幣、流、袁、都、能、佐、岐、那、流、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

本語を重云、**都、阿、勢、袁、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

社、○一松、ハ、一、本、松、云、う、○所、忘、ハ、其、時、より、今、忘、ま、く、あ、ら、を、云、う、○御、刀、ハ、草

那、藝、劍、と、ハ、別、**幣、流、袁、都、能、佐、岐、那、流、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

云、う、○袁、波、理、**幣、流、袁、都、能、佐、岐、那、流、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

迹、ハ、尾、張、よ、く、**幣、流、袁、都、能、佐、岐、那、流、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

○多、陀、迹、牟、迦、**幣、流、袁、都、能、佐、岐、那、流、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

幣、流、ハ、直、云、向、**幣、流、袁、都、能、佐、岐、那、流、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

つ、る、云、う、○袁、**幣、流、袁、都、能、佐、岐、那、流、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

都、能、佐、岐、那、流、**幣、流、袁、都、能、佐、岐、那、流、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

ハ、尾、津、之、時、在、**幣、流、袁、都、能、佐、岐、那、流、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

云、う、○比、登、都、**幣、流、袁、都、能、佐、岐、那、流、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

麻、都、阿、勢、袁、**幣、流、袁、都、能、佐、岐、那、流、比、登、都、麻、都、阿、勢、袁**

一、松、吾、兄、み、て、松、を、一、と、し、て、吾、兄、と、詔、り、袁、ハ、歎、息、の、辞、人、扱、非、情、の、物、を、兄

と、詔、へ、る、ハ、異、様、に、聞、こ、え、て、誰、も、い、ぶ、く、思、ふ、は、ど、後、あ、ら、う、万、葉、五、ふ、鳥

梅、能、波、奈、岐、美、乎、於、女、布、得、と、あ、ら、ハ、梅、を、君、と、云、う、枕、冊、子、み、せ、よ、と、け、い、の、歌

詠、も、吳、竹、の、枝、あ、ら、人、お、以、此、君、み、出、せ、云、々、是、ハ、昔、書、王、羲、之、傳、み、指、竹、曰、何、可、一

日、無、此、君、邪、と、あ、ら、故、事、よ、り、て、竹、を、君、と、云、う、此、ハ、例、猶、多、う、○比、登、迹、阿

理、勢、婆、ハ、人、あ、ら、せ、バ、人、○多、智、波、氣、麻、斯、袁、ハ、大、刀、佩、ゆ、を、く、○岐、奴、岐、勢、麻

斯、袁、ハ、衣、著、ゆ、を、み、て、袁、ハ、皆、歎、息、の、辞、あ、ら、接、み、劍、を、忘、れ、移、る、ハ、景、行、天

皇、四、十、年、十、月、よ、り、再、其、所、に、還、向、移、る、ハ、一、年、月、ハ、紀、二、渡、と、是、ど、倭、建、命、御、年、三

十、と、あ、ら、を、以、て、數、ふ、ま、は、其、翌、年、に、當、ま、り、あ、ら、れ、一、年、の、間、人、志、ど、く、行、く、ハ、

道、傍、あ、ら、て、盜、取、る、人、さ、つ、あ、ら、う、ハ、其、う、く、の、世、態、を、搜、る、ハ、か、く、云、明、治、八

年、より、實、二、千、七、百、六、十、五、年、の、昔、く、人、心、の、異、な、れ、ハ、譬、や、ま、の、あ、ら、

抑、古、學、ひ、ハ、古、今、を、兼、ね、わ、ろ、く、物、知、る、を、要、と、ま、あ、ら、ハ、誰、も、お、お、ト、心、を、こ

ま、ハ、あ、ら、を、ど、万、事、朴、直、ま、ら、ハ、世、の、行、ひ、を、千、の、一、も、真、似、傳、え、は、く、思、ふ、を、學

び、の、本、意、よ、ハ、あ、ら、う、ハ、弘、く、書、見、て、人、又、誇、る、ハ、狂、學、人、弘、く、學、び、え、て、古、を、思

ふハ實學あり、
勉^ムズ^ル慎^シズ^ル自^{ヨリ}其^コ地^ノ幸^ニ到^リ三^ヘ重^ニ村^ニ之^{トキ}時^ニ亦^マ詔^リ之^キ

○三重ハ伊勢國郡名あり○
吾^ガ足^シ如^シ三^ニ重^ハ勾^リ而^テ甚^ク疲^レ故^ニ號^ス其^ノ地^ヲ

如^ク三^ニ重^ハ勾^リ而^テ甚^ク疲^レ故^ニ號^ス其^ノ地^ヲ
謂^フ三^ニ重^ハ

和名抄云、糰餅形如藤葛者也、和名萬加利とありを引き、土佐日記云、はづりの
形もかまろざりたりとありをも合せて、宝螺貝の状に似て、三重に旋ま
りと云り、按、糰餅ハ所々みて、製法も何も、替まらぬや、已り見し、摂津国住吉
社に、獻供の糰餅ハ、稗の白米を、おろし、長三寸七分、幅一寸五分、厚四分弱く、形
小判の如く、細長きもの、是を油みて、煮由り、うすまじ、御足の腫れへる状
も、ゆづりを、三も重ねたりむ、如しとの意にて、三重勾とい、詔つりと聞、上代
の糰餅ハ、甚大ぞ、ゆづりむ、扱此幸行ハ、美濃より尾津次
杖衝坂と、あてて、地理の次第、叶も、猶考べ

○能煩野ハ伊勢國鈴鹿郡
自^{ヨリ}其^ノ幸^ニ行^リ而^テ到^リ能^ノ煩^ノ野^ノ之^{トキ}時^ニ思^フ國^ノ勢^ノ固^ク鈴^ノ鹿^ノ郡^ニ也
以^テ歌^ハ曰^ク夜^ノ麻^ノ登^ル波^ハ久^ク爾^ニ能^ル麻^ノ本^ノ呂^ハ

○久尔能、麻本
呂婆ハ、國之真
秀^ホふ^テ、呂^ノ婆^ハ
添^チ、ち^ノ辞^ヲき^リ

真秀とい、顯きて見ゆ、処を云、此呂字ハ、ラの古音以て書り、紀小摩保羅摩
み、作し、を見、一、万葉ノ國ノ麻保良と云、ちをく見也、此良も添、ちを、注
者、是、是を一辭言くと、思、つ、非あり、う、ら、此の婆字を、何の意とせ
む、是ハ奴を、ヤツコラとも、ヤツコラマとも云、るふおあトきをや○多多那豆
久も、記傳ハ委附ノ畧みて、礼記ハ、主、佩、垂、則、臣、佩、委、と、云、を、契、沖、ガ、引、出、を、り、と
云、り、是ハ礼記ノ曲礼ハ、見、を、ち、語、り、て、委、と、佩、ノ、地、ハ、低、て、疊、す、を、云、即
山ノ重、ち、ハ、係、る、枕、詞、あり○阿表加岐夜麻、碁母礼流ハ、青垣山隱、も、ふ、て、
青垣山と、中を切て、よむべ、く、濁音の碁字を、書、れ、を、ち、り○夜麻登志宇
流波斯ハ、大和ハ、心、愛、ふ、て、志、ハ、助、辞、ハ、
御哥ノ心ハ、あ、も、甚、あ、れ、り

○伊能知能ハ、
命^ノ之^キ也○麻
又^マ歌^ハ曰^ク伊^ノ能^ノ知^ル能^ル麻^ノ多^ク祁^ケ牟^ム比^ヒ登^ル

多祁牟比登波
ハ、將^シ全^ク人^ノ者^ト也

波^ハ多^ク多^ク美^シ許^コ母^モ幣^ハ具^グ理^リ能^ル夜^ノ麻^ノ能^ル

○多々美許母
ハ、疊薦みて重
久麻加志賀波表、宇受爾佐勢、曾
能古此歌者、思國歌也

夜麻能ハ、平群山之ふて、即大和国平群郡ふり山なり。○久麻加志賀波表ハ、
記傳ハ、隱白擣之葉と云リ。○宇受爾佐勢ハ、髻華ふ挿せり。谷川氏ガ後世の
挿頭くと云るが如し。○曾能古ハ、其子みて、全々む人々を指し、世つり、叔世ふ
命長き人ハ、狂ふふせと、詔つるふも、本國を慮、忍び給ふ、御心頭されと。

○波斯祁夜斯
ハ、愛きや一ム
又歌曰、波斯祁夜斯、和岐幣能、迦
多、夜斯ハ、阿那
迹夜志、誰ヤ
多用久毛韋、多知久母、此者片歌

も、キとよむづ、紀ふも波辞枳豫辞とあり、万葉ふ此語廿六首あり、中ふ波之
家也思と云、轉せりハ、總ふ六首のふれれば、正しき方ふより、○和岐幣能
迦多用ハ、吾家之方自あり、和岐も、吾より轉て、ワゲともワゴとも云
て、加行ふ涉り、活々るる、国典字徴ふ、記せりが如し、然ふ是を、吾家ハ、切りと云る

ハ、反切の例ふハ、叶へきど非あり、若此説を、是くとせむ、書紀万葉等ふ、見返と
る、昔部も、何の切とせむ。○久毛韋多知久母ハ、雲發來ふて母ハ、添たりあり、扱
クモ井と云、バ、雲の動りぬを云、きど、直ふ雲をクモ井と云、るも例あり、是ハ御
本居の方より、靡來る雲を、見給ひて、まづク、御心のほど、うあり、ふの
御歌ハ、論り、紀十七年、三月、條對、見るべし。○片歌ハ、常云ふ歌の
半ふて、結びと、のへたり、あれバ、後ふ此名を、つれたり、あり、べし。

○甚急、上卷ハ、コレトキ
此時御病、甚急、爾御歌曰、表登賣
不、忍、御腹之急、此、能、登、許、能、辨、爾、和、賀、淤、岐、斯、都、流

と、あま、此も
○表登賣能ハ、
能、登、許、能、辨、爾、和、賀、淤、岐、斯、都、流
少女之ふて、美
岐能多知、曾能多知、波夜歌竟、即

夜受比賣を申
崩
○登許能辨
ハ、床之邊ハ
崩
○和賀淤岐斯ハ、吾置り、るり。○都流岐能多知ハ、劍之太刀あり、劍とも解
ガの轉ふて、カ、當べき字を、あしきまは、後ふ書々りの、鏑、斧、まどりの、キ、ふて、
刀類の惣名を云、扱解とハ、牙、あま、毛物ハ、角を以て、身を守るあま、其、ふ准て、
人の佩るものを、解ギとハ、云、り、む、是をツヌギと云も、で、ツルギと轉し、云、る

ハ、垂仁紀云、額角、角、角、人、異國より來て、住一地を、角鹿と云ひ、之を後、敦賀
と云、轉せり、即越前國の郡名、同郡、角鹿神社も、式不見、延喜紀、仁德紀、菟
怒瑳破赴とあり、を、万葉、角障、經と書り、ハ、借字、而、解、葛とも轉、一云、
万葉、十二、石、葛、同、六、石、綱、顯宗紀、推室、葛根、あど、の、葛、即、葛、あ、葛、さ、
ふ、ハ、葛、さ、這、ふ、て、葛、草、の、延、石、と、係、る、枕、詞、あり、う、ま、は、角、ハ、蔓、と、轉、ふ、て、
ハ、解、ガ、あり、し、る、を、曉、る、べ、し、如、此、精、く、云、る、由、名、ハ、記、傳、ハ、劍、ハ、都、牟、刈、の、切、と
云、或、ハ、ツ、ル、く、と、研、る、由、名、ハ、名、づ、く、る、あ、ど、の、僻、説、ハ、耳、馴、つ、人、等、ハ、示、さ、む
と、思、ひ、て、あ、む、○曾、能、多、知、波、夜、ハ、其、大、刀、み、て、波、夜、ハ、歎、息、の、辞、ハ、此、御、劍、の、御
心、ハ、懸、り、浮、ふ、ハ、今、ま、の、際、ハ、至、る、ま、く、忘、れ、は、な、す、故、都、牟、刈、之、大、刀、の、牟、字、ハ、
マ、の、古、音、以、て、書、れ、バ、妻、許、之、大、刀、あ、り、む、と、彼、處、ハ、注、る、を、立、返、て、る、べ、し、
○驛、使、ハ、早、馬、カ、レ、ク、テ、マ、ツ、リ、キ、ハ、ユ、マ、ツ、カ、ヒ、ロ、
使、ま、り、○后、等、
○命、を、バ、天、
皇、ハ、准、奉、ま、る、
も、名、ハ、后、と、申、
し、上、は、崩、と、も、
稱、せ、り、常、陸、風、
上、記、ハ、倭、武、天、

爾貢上驛使、於是坐倭后等及御
子等諸下到而作御陵、即匍匐廻
其地之、那豆岐田、字、自、那、下、三、而、哭
爲歌曰、那豆岐能多能、伊那賀良

皇、阿波風上記
倭、健、天、皇、
○記、せ、り、扱、后
ハ、上、代、一、柱、
限、ら、ざ、り、記、傳、云、云、如、し、中、昔、ハ、至、り、中、宮、皇、后、と、二、柱、並、置、き、
一、ハ、外、國、の、制、を、以、て、我、古、を、許、る、べ、し、
御、陵、諸、陵、式、ハ、在、伊、勢、國、鈴、鹿、郡、
北、城、東、西、二、町、南、北、二、町、守、戸、三、烟、と、あり、
記、傳、ハ、同、郡、高、官、村、ハ、丸、山、と、も、茶、白、
山、と、も、白、鳥、塚、と、も、云、て、高、く、圓、き、山、何、り、と、云、り、
是、其、御、陵、と、云、る、べ、し、○那、豆、岐、
田、ハ、地、名、と、も、名、義、詳、し、○那、豆、岐、能、多、能、ハ、上、ハ、見、
延、て、六、言、の、句、ハ、
伊、那、賀、良、迹、ハ、
稻、幹、ハ、
打、返、し、た、
ハ、
歌、調、の、
よ、う、み、て、
古、哥、ハ、
例、あり、
○波、比、
母、登、富、呂、布、ハ、
延、廻、る、を、
延、云、り、
○登、許、呂、豆、良、ハ、
草、薺、葛、
ハ、
本、草、和、名、
ハ、
薺、を、
止、古、呂、と、注、し、
即、暮、積、の、
一、種、
ハ、
て、
鬚、
ハ、
人、
故、
ハ、
和、名、抄、
ハ、
野、老、
を、
よ、め、り、
此、御、歌、
ハ、
后、等、の、
哀、
ハ、
匍、匐、
廻、り、
行、
ハ、
草、葛、
の、
綿、
幹、
ハ、
延、
ハ、
狀、
ハ、
准、
詠、
ハ、
一、
行、
ハ、
る、
り、
○八尋白智鳥、
紀、ハ、
日本、武、尊、
化、
白、鳥、
從、
陵、
出、
と、
あり、
を、
此、
記、

於是化八尋白智鳥、翔天而向濱
飛行、以、音、爾其后及御子等、於其

古事記標注中卷之下
二十

小竹之薊杵雖足跡破忘其痛以

智鳥と記せりナツク 哭追オウ

此時歌曰阿佐士怒波良許斯那

豆牟蘓良波由賀受阿斯用由久

那

浅茅生ふと云ふ浅是なり万葉一ふ朝毛吉木人とあり木ハ葱みて上の浅も

朝も借字あり事を知らず一、字鏡ニ拮据を阿佐加保と注し万葉夫木後撰六

帖等ふアサガホと見をたのハ皆拮据木撞等をよめり即其花の蒼きを以て

名づけたまはば阿佐小竹原の阿佐も同義ありを了解すべし○許斯那豆牟

ハ腰泥むらゝ扱那豆牟とハ滞りてものぐらゝぬ意なれば小竹ハ障りて

行難き状なり○蘓良波由賀受ハ虚者不行りて虚をも行ましく思へど之行ず

とあり○阿斯用由久那ハ足自行りて歩行りを云り其上卷久延毘古段ハ

足雖不行とあり処ハ注るを見りべし言の終ハ那と云ハ歎意を含めて慥ハ

押へ云ときハ辞格あり其ハ万葉ハ例多く後ハ

又入其海鹽而那豆美此三字行

時歌曰宇美賀由氣婆許斯那豆

牟意富迦波良能宇惠具佐宇美

賀波伊佐用布

○古事記標注中卷之下

○二十一

の流れハ處を云○宇惠具佐ハ水ハ腦て萎々たり草なりうくむは宇
惠といハ旁ろハを云物食もぬハ餓字を書き是をウエともイヒニウともよ
こゆハ渴字をミヅニウエともウハ然ハウエと云ハ物くもぬも限り
思ふゆき物食もぬをうハ旁ろハ草なりうくむは宇
たりハ神武段ハ和礼波夜惠奴とありハ朕者旁ぬと詔へるなり是ハ后等の
旁りハ水ハ草なり草の如ハ意ハ宇惠具佐の下ハ如ハ

て、よむべし、記傳ふ、宇惠具佐、自生の草を云と、云るは非く、植ふ自生の義
理あり、予あく、且、自生草と見て、此御歌の、聞ゆるとのうらひ、○伊佐用布、進
くねて、ためしふ意く、一首の意、空飛鳥を、追ひて、海をなば、水も脳も、伏
たる草のぶとく、勞まつまを、潮水を、渉りやくも、進もえざるの意く

○波麻都、知登、又、飛、居、其、磯、之、時、歌、曰、波、麻、都、知、
理、濱、津、千、島、
ふて、次、波、麻、
用、波、と、云、語、と

呼、出、む、た、め、み、
設、り、た、り、詞、ふ、
布、是、四、歌、者、皆、歌、其、御、葬、也、故、至、
今、其、歌、者、歌、天、皇、之、大、御、葬、也、

○波麻都、知登、
理、濱、津、千、島、
ふて、次、波、麻、
用、波、と、云、語、と

呼、出、む、た、め、み、
設、り、た、り、詞、ふ、
布、是、四、歌、者、皆、歌、其、御、葬、也、故、至、
今、其、歌、者、歌、天、皇、之、大、御、葬、也、

○波麻都、知登、
理、濱、津、千、島、
ふて、次、波、麻、
用、波、と、云、語、と

呼、出、む、た、め、み、
設、り、た、り、詞、ふ、
布、是、四、歌、者、皆、歌、其、御、葬、也、故、至、
今、其、歌、者、歌、天、皇、之、大、御、葬、也、

○波麻都、知登、
理、濱、津、千、島、
ふて、次、波、麻、
用、波、と、云、語、と

と云、ハ、同言の重なり、省うりたるあり、然、記傳ふ、ハ、ブリと、濁音ふよ
と、りて、野山ふ、送、放、う、ナ、意と、云、る、ハ、死を哀め、るの、後世ふ過ち、古人の
情態ふ、叶えざれば、非事、上代ハ、喪屋を作り、舞樂を、あ、て、靈を慰め、死ても
死、り、と、ハ、思も、げ、し、心、よ、り、い、う、て、穢、ま、を、投、棄、る、お、と、く、放、す、と、ハ、云、べ、き、
猶、く、も、一、く、ハ、古、葬、儀、ふ、弁、お、り、○歌、云、々、葬、儀、ふ、歌、を、う、と、い、ひ、舞、を、ま、い、ハ、
常、ふ、て、然、例、等、
も、猶、古、葬、儀、ふ、
記、一、つ、○志、幾、
ハ、河、内、目、郡、名、
志、紀、ふ、り、紀、ふ、
追、尋、白、鳥、則、停、
倭、琴、彈、原、仍、於、
其、處、造、陵、焉、白、
鳥、更、飛、至、河、内、留、舊、市、邑、亦、其、處、作、陵、と、あり、記傳ふ、上代古市ハ、志幾の内あり
一と云、り、河内志、古市郡條ふ、白鳥陵在古市村、陵上有、祠、稱、伊岐宮云々、琴彈原
ハ、大和志ふ、在、葛、上、
郡、富、田、村、と、記、せ、り、
○古事記標注中卷之下
○二十二

○七拳脛、記傳ス、凡此倭建命、平國廻行之時、久米
子、脛の長き人、直之祖、名七拳脛、恒爲膳夫、以從
夫、食物を煮、炊く人、和仕奉也
名抄、大膳職を、於保加之波天乃、豆加仇と注せり、此語の起原ハ、拍より出た
り、大膳式、拍三十俵、裹飯料、大炊式、拍覆、宛拍九十八把、大嘗祭式、拍御膳拍云
々、人別給拍、即受酒而飲云々、按、飯を盛るも、覆も、酒を汲入るも、上代拍
葉を用ひ、ゆる、食敷葉、を、其を執り、人を膳夫と云り

○布多遲能、伊理毘賣命、上、此倭建命、娶伊玖米天皇之女、布
見、延、帶、多遲能、伊理毘賣命、字、布下、八生
中津日子命、御尊、御子、帶、中津日子命、又娶其入
建王、字の如、海、弟、橘比賣命、生御子、若建王、柱一
○安國造、上、

近淡海之安直、とあり、○意富、又娶近淡海之安國造之祖、意富
多牟和氣の意、富ハ大、多牟、子、稻、依、別、王、柱一
ハ記傳、地名、と云、久、諸陵、式、多、武、岑、墓、云々、在大和國十市郡とあり、○布多遲比
賣、布多遲地名、詳、○楯依別王、字の如く、稱、名之
○吉備臣、建日子、上、小吉備、又娶吉備臣、建日子之妹、大吉備
臣等之祖、御鈕、友耳、建日子、と、建比賣、生御子、建貝兒王、柱一、又娶
あり、○大吉備、山代之、玖、玖、麻、毛、理、比、賣、生、御、子、
名、ふ、よ、と、り、○足、鏡、別、王、柱一、又、一、妻、之、子、息、長、田
建貝兒王、貝兒、詳、ち、り、ず、○玖、別、王、凡、是、倭、建、命、之、御、子、等、并、六
々、麻、毛、理、比、賣、別、王、凡、是、倭、建、命、之、御、子、等、并、六

○古事記標注中卷之下

玖々麻ハ、和名ハシラマシ、故帶中津日子命者、治天下也。
抄云、山城国久
 世郡、郷名粟隈、久里久米とあり、此理の省りあり、毛理ハ守るべし。○足鏡別
 王、仲哀紀云、蘆髮蒲見別王、小作きり、名義考へたり。○息長田別王、息長ハ近江
 国、坂田郡の地
 名云、田ハ考ふ
 次稻依別王者、イナ君等之祖、建部次建
 上ハ、近江国の
 貝兒王者、カヒ表讚岐別綾君、伊勢之別、登
 郡名云、天武十
 三年、紀云、犬上
 君賜姓曰朝臣
 ○建部君、按祖也別
 建部ハ、国々ハ、何ぞ式ハ近江国、粟太郡建部神社あり、上ハ見よたり、犬上君
 小由何は此氏人此地ハ住らるべし。○綾君、綾ハ讚岐国郡名云、天武十三
 年、紀云、綾君賜姓曰朝臣とあり。○伊勢之別、記傳ハ伊豫之別君の誤なりと云
 り。○發表之別、考ふ。○麻佐首、詳をり。○官首之別、是を記傳ハ、ミヤチと訓
 り、然るハ官ハ宮とて、首ハ道の畧なり。○舊事記云、推武王、官道君祖とあり、
 御兄弟の間ふて、混たり。あつた、官道と云る地名ハ、和名抄云、参河国寶飯郡

の、郷名ハ見也。○鎌倉之別、鎌倉ハ相摸国の郡名云。○小津ハ、伊勢、遠江、近江、肥
 前等ハ、あり地名あり、記傳ハ小津ハ、キミ、とあり、是ハ小津君、石代之別、と
 りとむむを、君石相似たり、字あり、誤りて、君字を、脱せしあり。○石代之別、石
 代ハ、紀伊国の地名あり、万葉ハ見よ。○漢田之別、舊事紀云、推武彦命ハ、
 揮田君祖とあり、あつりて、記
 傳ハ、フキタと訓り、備考ハ
 ○杖俣長日子
 王、杖俣ハ和名
 抄云、摂津国住
 吉郡、郷名杖全
 久未多と注せ
 り、ヒを略ハ例
 息長真若中比賣、オキナガマコ次弟比賣、オトヒメ故
 上云、若建王、娶飯野真黒比賣、カミニイヘル生
 子須賣伊呂大日子王、スメイロオホナカツヒ自須至
 之、黒ハ面の黒
 此王、娶淡海之、柴野入杵之女、柴
 息長真若中

比賣の息長ハ野比賣生子、迦具漏比賣命故大
上ハ見込ヨリ、真若以下、極名
あり○弟比賣字の如し○須
賣伊呂大中日子王、上ハ見込
ヨリ○柴野入井の、柴野ハ近
江国の地名ナリ○柴野入
るべし、入ハ親む詞也、并ハ記
傳ハ君ヨリト云リ○銀
王ハ皇女也、紀比賣命、字の如し、紀ハ彦人大兄、女ト云リ○香坂王の香ハ、字音ありを、音法を

野比賣生子、迦具漏比賣命故大
帶日子天皇娶此迦具漏比賣命
生子大江王、柱此王娶庶妹銀王
生子大名方王次大中大比賣命、柱
故此之大中比賣命者香坂王忍
熊王之御祖也、此大帶日子天皇
之、御年壹佰參拾漆歲、御陵在山
邊之、道上也

洩セリ、紀ハ齋ヲ作スリ、地名あり○忍熊王、大和志ハ添下郡ハ押熊村ハ
リ、此地ハ由アル御名ナリ○壹佰參拾漆歲、紀ハ一百六歳ト云リ○山邊之、道上、
諸陵式ハ、在大和国、城上郡、北城東西二町、南北二町、陵
戸一畑ト云リ、大和志ハ、在柳本村東、称御陵ト記セリ
○若帶日子天皇ハ、後ハ成務
と、謚奉スリ○志賀ハ、近江国
の郡名ナリ○高穴穂宮、記傳
ハ、此宮の地也、神明鏡ハ、今ハ
志賀寺是レト云リ、朝野群載十一ハ、穴太、馭見也、今穴太村ハ、ト云、三
代實録七ハ、近江国坂田郡穴太氏ト云リ、志賀郡ヨリ移ルルアリ○建
忍山垂根の、忍山ハ、式ハ伊勢国鈴鹿郡忍山神社ト云リ、建ハ垂根
也、称、ちろく○弟財郎女、字の如し○和訶奴氣王、奴氣考ス
○大臣、よの臣、故、建内宿祢、爲大臣、定賜大國、小
ハ、君ハ對テ、下

身ミの畧リョウありベクニ
大臣オホシハオホ
國クニ之ノ國クニ造サダメ亦ナラ定サダ賜タマフ國クニ國クニ之ノ堺サカイ及マダ大オホ
オホオホトモ、オホ
マヘツギミト
縣ガタ、小縣カガタ之ノ縣主アガタヌシ也

も、オホマキキミともよむべし、此大臣を記傳ふは、官名をりしむ、臣と云ふ、大なる美稱を加たりと云ふは非く、式の歷運記ふも、至景行天皇、始置棟梁之臣、成務天皇改立大臣之号と有りて、職原抄太政官の下ふも、然記せむは、素より官名あり、論ふ及も、大國小國の、字の如し、職員令ふ國を大上中下の四等に分けたり、按ふ上代も、戸数の多少も、よろしむて、凡廣狹を以て、大小の命をば、定賜ふし、よき有り、やめ、國造の事へ上は注り、目造本紀ふ、此朝不定、注り、目造の數九六十一國を載り、是より次々、雄略天皇、繼體天皇等の御世の頃、ゆゑ、を合て、百三十三國の、目造を記せり、然し世の學者をり、百四十四國の、目造と云ふ、あり、目造本紀の始ふ、摠任國造百卅四國とあり、るをのり見て、毎國不涉り數見ざり、やむの誤あり、委し、諸國目造考ふ、記せり、我見るべし、扱此不定、賜とあり、此御世の目造を、定賜ふて、目造を始ふとす、と云ふ、あり、あり、國々之堺元より、扱はり、を、此御世も、殊更ふき、もや、不定、注り、紀ふ、隔山河而分國縣隨阡陌以定邑里、因以東西為日縱南北、為日横、あり、是は、國縣を、分定、注り、法則之、大縣、小縣、是を、オホアガタ

ヲアガタと、訓ナリ、き、和名抄河内國郡名、大縣、於保加多、信濃國郡名、小縣、知比佐加多、あどの例を見るべし、名義は、領地の轉り、領字の轉り、何れもすれ、十より、クも、轉り、扱字の轉り、むと、おぼしき、朝野群載七ふ、大和國山邊郡、池上庄、田地云々、大神宮雜事記ふ、字御瀬川云々、字俱留万川、あどの字、ふて、後、字と云ふ、は、畔名の轉り、又地を十と云ふ、大穴牟遲神、下ふ、委し、注、るが如し、此二説の中、領地の方を取べし、扱十をタと轉りて、領地を縣と云ふ、も、上卷ふ、伊那佐之小濱を、紀ふ、五十田狹之小汀、ふ作り、蠶實を、康頼本草ふ、加岐都波奈と注し、即垣内花ふ、を、本草和名ふ、加岐都波太と記し、和名抄ふ、刺草を、即蠶實の一名ふて、此花は、燕子花ふ、よ、似を、古人の心々ふ、名を配り、或は杜若を、さへ、より、此外花薄を、層薄と云、粟々を、ワグタク、ふ、多行の清音ふ、う、つせ、る、上、濁音、あり、は、鼻聲、不、障ら、れ、時、清、て、タと云、り、此差別は、韻學不精、人ふ、あり、て、曉、ダ、と、ま、を、の、ど、抑、縣、ハ、國、よ、り、分、た、り、地、ふ、て、後、是、を、郡、字、不、改、注、り、孝、德、天、皇、大、化、二、年、紀、ふ、郡、を、大、中、小、の、三、等、ふ、領、り、是、上、代、大、縣、小、縣、の、姿、を、少、易、注、り、其、後、文、武、元、明、の、御、世、の、間、や、革、々、む、戸、數、を、以、て、大、上、中、下、小、と、郡、を、五、等、ふ、分、定、注、り、る、戸、令、ふ、見、込、り、此、郡、字、を、コ、ホ、リ、と、よ、め、り、朝、鮮、の、方、言、を、受、傳、た、り、み、て、其、證、ハ、訓、蒙、字、會、ふ、見、込、り、然、し、記、傳、ふ、縣、と、云、ふ、上、田、ふ、て、供、御、の、菜、蔬、を、作、出、せ、り

畑を云ふ云ふ、無替古を云ふ、僻説あり、京地側近の、田あり、むふも、菜類
をも、作り供り、たむ、對馬の、郡名上縣、下縣を、もどめ、う、故遠國等、朝夕供
る、菜蔬を、作ら、む、理なきを、思へ、神名式、み、鋏を、進る、社、畿外、丹波國、
氷上郡、知乃神社を、除て、り、を、さく、見、是、供御の、菜蔬を、作、出、御園、近き、
神社、を、り、を、知、て、縣、上、田、と、云、る、説、の、非、を、弁、べ、し、猶、縣、の、り、郡、名、
私考、云、る、如、し、○縣主、郡司、後、大領、少領、と、云、る、ふ、當、り、職、名、ふ
り、是、も、此、御代、始、注、つ、る、ふ、あ、る、む、既、神武紀、猛、田、縣
主、あ、ど、見、こ、り、此、不、如、斯、あ、る、殊、更、革、定、さ、る、一、と、

○玖拾伍歲紀、スメラミコト天皇御年、玖拾伍歲、御陵、在沙紀
ノ一百七歲と、スメラミコト天皇御年、玖拾伍歲、御陵、在沙紀
あり、○沙紀之、タ之多他那美也

多他那美紀、タ之多他那美也、
狭城盾列、作り、諸陵式、在大和、目添下郡、北城東西一
町、南北三町、守戸五畑と、記、大和志、在山陵村、あり、
○帶中日子天、ナカツヒ帶中日子天皇、坐穴門之、豐浦宮、
皇、後、仲哀、ナカツヒ帶中日子天皇、坐穴門之、豐浦宮、
と、謚、奉、り、○マツ及筑紫、訶志比宮、治天下也
穴門、長門國

の古名、ち、り、上、注、り、○豐浦宮、長門國豐浦郡、今、長府と、云、り、○訶志
比宮、和名抄、筑前國糟屋郡香椎郷、り、て、加須比と、注、筑前風土記、も、哥
襲宮、作り、新續古今集、佐保媛の、衣を、と、ま、り、す、み、深、あ、ど、あ、る、り、土人、の
訛言を、其、終、記、し、も、し、よ、く、も、し、ち、り、と、紀、不、檀、日、宮、作り、三代實錄、九、香椎
廟、と、も、り、今、土人、も、カシ
と、呼、り、此、地、御社、あり、

○大江王、香坂、コ此天皇、娶大江王之女、大中津比
王、忍熊王、何、コ此天皇、娶大江王之女、大中津比
も、上、注、り、○メ賣命、生御子、香坂王、忍熊王、柱、又
品夜和氣命、メ賣命、生御子、香坂王、忍熊王、柱、又
不譽屋別、作り、メ賣命、生御子、香坂王、忍熊王、柱、又
り、名義考、ふ、メ賣命、生御子、香坂王、忍熊王、柱、又
一、○大鞠和氣、ホ品夜和氣命、次大鞠和氣命、亦名
命、名義次、見、ホ品夜和氣命、次大鞠和氣命、亦名
近、り、○品陀、ホ品陀和氣命、柱、此太子之御名、所
和氣命、紀、不譽、ホ品陀和氣命、柱、此太子之御名、所
田別、作り、ホ品陀和氣命、柱、此太子之御名、所
名義次、見、ホ品陀和氣命、柱、此太子之御名、所

○御腕トモ和名抄シハ鞆アリン宍生ニタタキ御腕ニ故ユニ著シテ其御名マツリキノ是以ニ知コトヲ
も注モサレ、記シのマシヨリ坐腹ニ中國ニ也クニ
古注ニ、上古時ニ坐腹中國也ニ
俗、号鞆謂廢武多とあり、谷川氏ガ、はちり手の義、と云まど、ハマルの轉マり、
一〇知坐腹中國也、御手ニ鞆の形ニをせり物の生シ、路ノを思ふ、御腹ニ坐一
時ノ、神ニ御徳ニキ、て、国ヲを知食シ、路ノとく、叔知食ハ、現ル物ヲをり、予ノとの、
思ふべう、む、神ノ知食モ同意ナり、を、記傳ニ腹中ニ下ニ、定メ字ヲを補ヘる、本
の、ゆ、ち、て、
讀ミえざレ、
○淡道之屯家ニ、
の、淡道ハ、淡路、
目ノ、屯家モ上ニ、
注リ、○當時ニ、
も、ソノヲリト、
よむべし、万葉ニ、
二、君興時ニ、
幸而、真字伊勢ニ、

此之御世、定淡道之屯家也、其大
后、息長帶日賣命者、當時歸神、故
天皇坐筑紫之訶志比宮、將擊熊
曾國之時、天皇控御琴而建内宿
祢大臣居於沙庭、請神之命

物語ハ、言フ、逆時ノ、節ノ、毎ニ、あり、是ハ、時ノ、字ヲ、ヲリト、よめ、例ハ、人ノ、向テ、當時ヲ、允恭
紀ハ、當時ノ、風俗ニ、云々、雄略紀ハ、當時ノ、あどノ、より、人ノ、うレ、ま、此ハ、當時ヲ、ソノカミト
よまむ、當リ、とも、聞ク、今ハ、按テ、ソノカミト、云フ、語ヲ、昔ト、云フ、べき、処ハ、
用フ、り、其時ト、云フ、意ハ、云フ、り、今ハ、後ト、云フ、云フ、り、大和物語ハ、
行人ハ、其ノ、來ル、む、ソノ、心ヲ、回シ、ヤク、ノ、別レ、ま、り、是ハ、死ス、
べき人ヲ、よめ、ま、是ハ、行先ヲ、ソノカミト、よめ、人ノ、真儀抄ハ、その、
時ト、も、書キ、り、その、を、り、と、云フ、り、され、
と、云フ、り、と、云フ、り、此ハ、不レ、列レ、り、大和物語ハ、哥ヲ、を、思ヒ、て、今ハ、行ハ、未ダ、も、云フ、り、
云フ、り、真字伊勢物語ハ、寂初東鑑ハ、五十ニ、當リ、初ニ、と、書キ、文選ハ、潘岳ノ、揚仲武ノ、誄序ハ、
自時ノ、迄ニ、今ハ、あど、惣テ、昔ト、と、云フ、り、云フ、り、ま、多ク、和訓ハ、其ノ、
ふ、禁河書ハ、久時ヲ、よめ、石上ノ、義ヲ、み、て、古ノ、詞ヲ、よ、云フ、り、云フ、り、
よめ、り、も、上ニ、昔ノ、争ヲ、を、云フ、り、其時ト、措テ、詞ヲ、あり、と、云フ、り、此ハ、説ハ、よく、云フ、り、
も、中ニ、昔ノ、作リ、出ス、り、詞ヲ、あり、ま、古ノ、枕詞ハ、石上ヲ、を、畧シ、て、ソノカミト、云フ、り、
其由ヲ、釈シ、て、改メ、つ、り、
上ニ、注リ、〇控御琴ハ、神靈ヲ、を、招ク、奉ル、祭式ハ、
事要畧ハ、廿八ニ、審神者ノ、言ハ、審祭神ノ、明託宜ノ、之語也、と、り、意ハ、然ル、事ハ、れ、是ハ、を、サ
ニハト、云フ、り、訓義ハ、詳シ、り、む、記傳ハ、清庭ハ、候フ、人ヲ、云フ、り、云フ、り、是ハ、
〇古事記標注中卷之下
〇二十八

○大后
歸神を記傳ふ
大后、カムガカ
リシテ、とよめ
る、意ハ然るま
きど、然よほむ
みハ、為ニ神懸而
とあり、べきふ
り○言教ハ記
傳ふ言ハ、事の
借字之と云、
○金銀の金ハ、
黄金の轉あり、銀ハ白金あり○珍寶ハ尊等して、等とい添、ちる辭之、如斯添ふ
るハ、隨ひて、寶と云、一鉢語といふも、りき、萬葉十六ハ、寶之子、落窪物語、大鏡等
ハ寶、君空穂物語、吹上ハ、寶、玉など見也、金銀等を、夕カラと云、るも、同義あり○
歸賜、祈年祭祀詞ハ、八十綱打、撰、引寄、如事、云々、寄奉、波とあり、從、依らむる
之○黙坐の黙ハ、物言ぬるまて、雅俗ともハ、通へるを、記傳ハ、母陀ハ、牟陀と通
ひて、徒然あり、意あり、と云、るハ、非あり、の、ち、ち、ち、ち、一向の俚語をまへ、引合せ

於レ是、大后歸神、言教覺詔者、西方
有國、金銀爲本、目之炎耀、種種珍
寶、多在其國、吾今歸賜其國、爾天
皇答白、登高地見西方者、不見國
土、唯有大海、謂爲詐神而押退御
借字之と云、
○金銀の金ハ、
黄金の轉あり、銀ハ白金あり○珍寶ハ尊等して、等とい添、ちる辭之、如斯添ふ
るハ、隨ひて、寶と云、一鉢語といふも、りき、萬葉十六ハ、寶之子、落窪物語、大鏡等
ハ寶、君空穂物語、吹上ハ、寶、玉など見也、金銀等を、夕カラと云、るも、同義あり○
歸賜、祈年祭祀詞ハ、八十綱打、撰、引寄、如事、云々、寄奉、波とあり、從、依らむる
之○黙坐の黙ハ、物言ぬるまて、雅俗ともハ、通へるを、記傳ハ、母陀ハ、牟陀と通
ひて、徒然あり、意あり、と云、るハ、非あり、の、ち、ち、ち、ち、一向の俚語をまへ、引合せ

○向一道
爾其神大念、詔凡茲天下者、汝非
應知國、汝者、向一道、於是建内宿
祢大臣白、恐我天皇、猶阿蘇婆勢
其大御琴、自阿至爾、稍取依其御
琴而、那麻那摩、邇以此五字、控坐、故
未幾久而、不聞御琴之音、即舉火
見者、既崩訖

○古事記標注中卷之下
二十九

○古事記標注中卷之下

二十九

四不、不相見者、幾久毛、不有目とあり、を略解ふ、イクバク、ヒサモと、
よめら、非く、同十一も、相見而、幾久毛、不有爾とあり、久々さる

○殯宮の殯ハ、カレ、爾驚懼而、坐殯宮、更取國之大奴

將遷葬、柩廣遇、佐而、字奴、以音二種、種求、生剝、逆剝、阿

之とあり、是を、離、溝埋、尿戸、上通下通、昏、馬、婚、牛

ハ一、構、の内を、婚、鶏、婚、犬、婚、之、罪、類、爲、國、之、大、被

云、ま、墓を、奥、而、亦、建、内、病、祢、居、於、沙、庭、請、神、之

津城と云、る、城、命、於、是、教、覺、之、狀、具、如、先、日、凡、此

みおあ、其、衣、屋、み、在、る、間、の、基、み、對、て、鹿、と、い、云、り、攝、津、國、者、坐、汝、命、御、腹、之、御、子、所、知、國

者也、目、天、王、寺、の、邊、サ、ト、シ、ヒ、キ、み、荒、陵、と、云、山

り、世に茶臼山とも云、り、此山も、仁徳天皇、あ、り、う、り、御、自、の、御、墓、を、築、お、り
一、路、み、一、つ、ども、御、心、不、應、得、く、で、和、泉、目、不、改、築、一、の、路、つ、是、を、荒、陵、と、稱、し、る
を、以、て、荒、城、の、義、理、を、知、べ、一、○、目、之、大、奴、佐、目、を、諸、國、を、云、大、奴、佐、名、義、詳、さ、る
ま、是、ハ、絹、布、み、ゆ、ま、麻、み、ま、ま、禮、代、み、神、不、進、り、又、被、具、み、も、用、た、る、但、被、具、ハ、品
械、を、ま、と、り、數、種、あ、ま、ま、其、を、惣、て、奴、佐、と、い、云、ず、大、神、宮、儀、式、帳、み、奴、佐、麻、と、あ
る、も、麻、の、奴、佐、あ、り、新、撰、大、帖、み、今、そ、わ、ま、を、て、う、ま、は、ま、ぬ、ら、の、君、う、手
あ、れ、一、時、ど、あ、ひ、一、き、と、あ、り、も、あ、ち、ド、扱、是、ハ、神、の、御、言、を、請、得、ふ、ま、ま、此、大
夜、も、あ、り、あ、り、抑、上、代、忌、服、の、事、聞、を、ず、此、件、の、古、事、を、思、ふ、も、大、被、の、式、り、
て、本、不、復、一、つ、と、察、也、猶、よ、く、考、ぶ、一、○、生、剝、逆、剝、ハ、生、あ、る、が、剝、ハ、逆、さ、は、る、ら
業、あ、り、と、云、を、文、不、如、此、云、る、も、上、卷、逆、剝、天、班、馬、剝、と、あ、り、処、み、注、ろ、ろ、如、一、此
逆、剝、を、記、傳、み、尾、方、より、剝、ま、ま、説、ろ、ハ、論、ふ、ち、ろ、ず、○、阿、離、ハ、畔、放、み、て、田、の
畔、を、破、り、塚、を、乱、ま、く、○、溝、埋、ハ、上、卷、み、埋、其、溝、と、り、○、尿、戸、の、戸、ハ、家、み、て、尿
以、家、を、穢、す、を、尿、戸、と、い、云、り、記、傳、み、戸、ハ、幣、理、の、理、を、省、り、と、云、ろ、ハ、非、あ、り、
和、名、抄、み、尻、を、倍、比、流、痢、を、久、曾、比、理、乃、夜、萬、比、と、あ、り、如、く、尻、ヒ、ル、影、ヒ、ル、と、ま
其、云、い、う、で、尻、へ、ル、尿、へ、ル、と、い、も、抑、此、條、ハ、須、佐、之、男、命、の、犯、一、路、み、一、御、行
み、て、本、條、も、尿、戸、の、事、を、於、聞、者、大、堂、殿、尿、麻、理、散、と、あ、り、を、や、○、上、通、下、通、婚
を、記、傳、み、オ、ヤ、コ、タ、ハ、ケ、と、よ、め、り、不、從、ふ、大、被、詞、み、已、母、犯、罪、已、子、犯、罪、母、與、子
犯、罪、子、與、母、犯、罪、と、あ、り、を、約、た、る、ま、ま、○、馬、婚、以、下、字、の、如、一、如、此、並、た、る、罪、條

○古事記標注中卷之下

○三十

どもハ、上代の法律あり、故ヤ○国之大被ハ、国々不布告して、禊も一り、ゆふを
久抑被ハ、凶惡を拂棄て、吉善不移るの、重き神制をまゝハ、朝廷より一りて、下民不
至るまで、家毎不、分限の被ハ、行まれしを、
世と共に、衰へつゝハ、浮屠の所為くろし

○神腹ハ、皇后
の御腹あり、記
傳ハ、今神の著
らせまば、然申
と云、り○此時
三柱云々、記傳
ハ、御名の顯は
るとハ、先度ハ、
命を請奉り
時ハ、御名告
無く、何神とも
知らまざり
を、此度問奉り
一ハ依て、始め
爾建内病祢、白恐我大神、坐其神
腹、之御子、何子歟、答詔男子也、爾
具請之、今如此言教之、大神者欲
知其御名、即答詔是天照大神之
御心者、亦底筒男、中筒男、上筒男、
三柱大神者也、之、此時、其、三、柱、大、神、
今寔思、求其國者、於天神地祇、亦

て如此、御名告
一ハ依つるを、云
あり、其、目、ハ、三
韓之○天神地
祇、案ハ出陣ハ
神を祭るハ、皇
目の古例にて、
神武紀ハ、磯城
ハ十梟帥を、討
つ時、丹生川上
ニ、天地神祇を
祭り、ゆふ、孝
靈、段
不、於、針、間、水、河、之、前、居、忌、免、云、々、崇、神、段、不、於、九、迹、坂、居、忌、免、云、々、猶、例、多、う、り、○
我之御魂ハ、三柱大神ハ、真木ハ、神代紀ハ、被、字、を、よ、り、り、○比羅傳ハ、神武紀
ハ、葉盤をよ、り、大嘗祭式ハ、笠形葉盤ハ、云、も、有、り、て、今、ノ、大嘗祭ハ、葉盤ハ、栢葉を
竹針にて、圓く平く、造ると云、り、此物等を、海に、浮ぶ
るハ、神心にて、深、理、り、あ、れ、れ、ど、其、所、以、ハ、知、り、が、こ、り
○負御船ハ、魚
等、船、腹、不、集、り、て
持、揚、る、状、ハ、○
御船之波瀾ハ、
海原之魚、不問大小、悉負御船而

○古事記標注中卷之下

御船を寄たら
浪あり○新羅
渡爾順風大起御船從浪故其御
此記九恭段
姓氏録等、新
良小作事、是
シラギと云、
るの基本あり
べき、然、良音
を、古、ラギと云
き、其例、和名
抄、武藏、郡
名、久良を父良
岐、注せり、う、
ギとよめり、う、
龍吉支、夏言、
烈紀、百濟新撰、
須利君の子あり、
飛鳥戸造、豊宗云々、
其先、出自、百濟、
用、人、現、伎、也、
是、ら、を、併、思、ふ、
百、濟、國、

無退仕奉
船、不乾船腹、不乾船楫、共與天地、
後、隨、天、皇、命、而、為、御、馬、甘、每、年、雙
國、於、是、其、國、主、畏、惶、奏、言、自、今、以
後、隨、天、皇、命、而、為、御、馬、甘、每、年、雙
國、於、是、其、國、主、畏、惶、奏、言、自、今、以

小て、其王を呼ぶ、方言なめまど、我皇國より、惣て外夷の王等を呼ぶ、俗稱く
い為りき○御馬甘、御馬餅の畧ありべし、上、鳥甘部と云、見也○毎年、万
葉十九、毎年謂之、等之乃波、とあり○共與天地、字の如し、万葉ふムタと云
る多し○無退の退、字、類聚名義抄、字鏡集等、ム、ヤムと注せり、止あり是を
記傳ふトコトハ、とありまど、義、然、ま
とありまど、然、訓、ダ、と、れ、バ、改、め、つ
○百濟をクダ
ラとより、
彼國の方言を、
傳、たり、と、見、也
○渡屯家の渡
海、ふて、海、も
渡、る、も、の、ゆ、ゑ、
借、字、ま、り、正
訓、あり、万葉、一、少、對、馬、乃、渡、中、爾、と、も、有、欽、明、紀、
ハ、御、家、ま、り、上、ふ、注、り、○御、杖、紀、不、て、
を、門、と、よ、め、り、允、恭、段、ハ、加、那、斗、万、葉、
の、畧、と、思、へ、ら、め、ど、門、ハ、垣、門、あり、加、那、斗、
の、畧、と、思、へ、ら、め、ど、門、ハ、垣、門、あり、加、那、斗、
の、畧、と、思、へ、ら、め、ど、門、ハ、垣、門、あり、加、那、斗、

故是以新羅國者定御馬甘百濟
國者定渡屯家爾以其御杖衛立
新羅國主之門即以墨江大神之
荒御魂為國守神而祭鎮還渡也

神、底筒男、中筒男、上筒男の、三神之。○荒御魂、紀不扣魂、服玉身而守壽命。荒魂為先鋒而導帥、船とあり、和魂ハ此大神のまゝ、扱御魂ハ神も人も人も、必ニッあり。此の傳、子て、燗し、先人のエユして、つゞく思ひ心見、荒魂ハ、病ふよりにて、死る前日、又三五日前、脱出するもの、若死然をえむして、死る人ハ、其時、不抜出と云り、年治若して、肥後不在一時、近所、不蓋死のものあり、我傍輩ども、ちりちり、トめ、聞おきし事ありむ、鉄以て蓋する下を三四寸許地を掘り、櫻蔦、蔦とも、云べき状のもの、一塊掘出あり、是其人の荒魂にて、夜中空を飛行するなり、是を人魂と云り、此魂有りて見えて、忽消迹、千載を経ても持る事あり、實ニ不可思議と云べし、和魂ハ、死期不至るまで、其身を守り、抜出さば、息絶ふあり、此二魂とも、貴賤不拍らず、産巢日神より、賜らるるもの、云はば、死れバ一度ハ、産巢日神の御許、不参歸りりと察也、古語ニ神上と云り、是との證ニ、まろり、ちり、然きども、現身の間、住まじ、地ハ、歸來て、清地ニ群坐し、若扱祭る人られ、幾所も、靈を命て祭るなり、炬火を命るふ、異あり、今業ニ、荒魂和魂、元月魂より、分まつま、命も、其荒魂ハ、和魂ハ、添、和魂ハ、荒魂ハ、添、るを、ちり、然、ハ、大三輪の大神ハ、大穴持命の和魂ニ坐せり、神賀、詞不見、つら、式ニ、大和国、城上郡、狹井坐大神、荒魂神社とあり、をを見るべし、是和魂より、又荒魂を、分給つるあり、ちり、ちり、分魂の、理ニおいて、わくと思ひ、究むるも、知るべき、限、ちり、む、支那人も、人ニ魂有り、るを、既、思をえて、魂魄の二字を、

作出り、我古傳の如、精、く、い、あり、ねど、大方ハ、符合し、るも、甚め、で、り、然る、不、記傳を、え、ト、め、世の學者たち、此二魂の深理を、ば、え、も、探ら、む、して、とも、な、れ、バ、彼、黄泉の妄説を、取出つ、るも、乎、古、あり、業、あり、ヤ

○其政ハ、征韓の事、未、彼地、ハ、渡、幸、坐、ぬ、前、の、事、を、立、返、り、記、せ、り、之、○
故其政、未竟之間、其懷妊、臨産、即為鎮也、還幸、ま
渡筑紫國、其御子者、阿禮坐
以音、故號其御子生地、謂宇美也、亦
所纏其御裳之石者、在筑紫國之
伊斗村也
 田とあり、其地の古名あり、○伊斗村ハ、筑前国、怡土郡、あり、今、深江と云、地、不、鎮、懐、石と、綴、て、社、あり、此、石、の、事、ハ、筑前風土記、及、万葉、五、五、委、見、を、り、

義久、何きふも有べし。○喪船ハ、板を載た船を云。○斗賀野ハ、摂津国の地名あり。仁徳紀ハ、兎鐵野の鹿鳴を、高基より、聞ひる。○此大宮ハ、大阪の上町の東、高津村、其趾、阿りと云まば、其より遠からぬ所之難波古園、石山城より、北西、淀川縁、小川崎と

於是息長帶日賣命於倭還上之時、因疑人心、一具喪船、御子載其喪船、先令言漏之御子、既崩如此上幸之時、香坂王、忍熊王、聞而思將待取、進出於斗賀野、爲宇氣比猶也、爾香坂王、騰坐歷木、而是大王、其弟、忍熊王、不畏其態、興軍待向之時、赴喪船、將攻空船、爾自其

云、此阿り、此地を斗賀野と記

セリ是あり、摂津志八部郡、條ふ、刀我野、夢野村等、阿り、高津宮より、鹿鳴の聞ゆべき、此ふあり、板バ、證例とハ、一、宇氣比猶、紀ハ、祈狩不作り、若、有成事、必獲良獸と阿り、是誓約あり。○歷木、和名抄ふ、舉樹、久沼木、日本紀私記云、歷木とあり。○而是の是字ハ、記傳ハ、見の誤あり、むと云り。○怒猪ハ、手負猪あり。○昨食の食字ハ、殺の誤あり、紀ハ、昨而殺と阿り。○空船ハ、記傳ハ、軍士の乗らざる船を云と云り。○下軍ハ、下陸之

○難波、吉師部の難波ハ、地名

○此時、忍熊王、以難波、吉師部之祖、伊佐比宿禰、爲將軍、太子御方者、以丸邇臣之祖、難波根子、建振熊命、爲將軍、故追退、到山代之時、還立、各不退相戰

○古事記標注中卷之下

近江の海とよみ、湖をニホノウミと云ふは、此枕詞より、誤まりと云り、年治云、和名抄云、同国野洲郡、通保郷、此地湖水の縁、今もニ保川あり、是ニホノウミと云出し、起原あり、然れども、ニホテルも、未考ず、○阿布美能、宇美迦、近江之湖、○迦豆岐勢那和、ハ潜為、我より

○襖、昔難波又唐崎、為、
而、テ經歷淡海、及若狹國之時、於高

志前之角鹿、志前之角鹿ハ造假宮而坐、爾坐其

夢、云、以吾名、欲易御子之御名、爾

言禱、白之、恐隨命、易奉、亦其神詔、

明日之旦、應幸於濱、獻易名之幣、

故其旦、幸行于濱之時、毀鼻入鹿、

魚、既依一浦、

奢沙和氣大神、

大神、御名、

○言禱、大殿祭

祝詞云、言壽、古語云、許止保企、と注せり、御名易の壽言あり、○易奉、記傳云、太子

太子の御答あり、事決、一、叔御名を御互ふ、取易、流ふ、あり、む、太子の御名を

以て、神の御名ふ、一、たまむ、む、と、記傳云、大鞠和氣大神と、改流、む、む、書、

洩た、む、む、と、云、り、○幣、ハ、禮代、み、今、云、音物、云、○其且を、記傳云、ツトメ

テと、よ、て、其説、前夜云々と云、て、其明、朝を、ツトメテと、云、と、云、り、其、新

古今集、ふ、と、く、の、人、菊、の、あ、る、露、と、ハ、お、ま、て、つ、と、め、て、ま、む、む、を、一、を、思

ふ、と、云、る、あ、る、を、思、へ、る、ふ、や、年、治、按、ふ、ツトメテと、ハ、前夜云々と、有、無、不、拘

ら、ず、只、早、朝、と、云、意、ふ、て、風、め、て、も、風、ふ、も、云、り、空、穗、藏、閑、ふ、官、つ、と、め、て、よ

久、く、ろ、く、と、云、て、云、々、斯、る、例、多、く、ま、ば、今、姑、字、の、依、ふ、よ、と、○毀鼻、ハ、色、葉、字、類

抄、云、算、字、を、ハ、ナ、ウ、ケ、ル、と、注、せ、り、是、ハ、鼻、の、類、を、状、之、と、見、也、遊、仙、窟、云、懸、望、

眼、應、穿、と、も、何、り、○入鹿魚、ハ、和名抄云、鯨、鯨、大魚也、色、黒、一、浮、一、没、云、々、和名伊

流、可、と、あり、此、魚、南、部、又、筑、前、等、み、て、ユ、ル、カ、と、云、形、状、鯨、不、似、て、大、あ、る、と、の、先

○古事記標注中卷之下
○三十七

よーあり、此魚一浦に依り、御名易の幣物なり、鼻の毀れり
ハ一浦に寄せ給ふむとあり、魚に鼻を衝かめしむるを云ふ

○御食津大神 於是御子令白于神云於我給御
の御食ハ食物 食之魚故亦稱其御名號御食津
ハ功あり神ハ 廣稱せり此 大神故於今謂氣比大神也亦其
ハ食料の魚を 献まらば云ふ 御名不負せ給
つり○氣比大 入鹿魚之鼻血鼻故號其浦謂血
神式不越前因 敦賀郡氣比神 浦今謂都奴賀也

社七座あり、祭神詳あり、或云仲哀天皇を祭ると云ふハ、太子の梓弓
を綴として思ひ寄せとる説人、神名帳頭注ハ風土記云、氣比神宮者、宇佐同体
也云々、仲哀天皇之鎮座也とあり、風土記と云ふもの、社おぼつらふとあり、豊前
國、宇佐不、仲哀天皇を祭るる多し、此外諸説尙あり、○都奴賀ハ、敦賀不、
和名抄ハ、都留我と注せり、垂仁紀ハ、額有角人乘一船泊于越前、飯浦、故号其
處曰角鹿とあり、を對ありと云ふ、此ハ血浦の、都奴賀不轉、と云ふと云ふ、友物達々

是ハ紀を正し 於是還上坐時其御祖息長帶日
とすづー○御 賣命釀待酒以獻爾其御祖御歌
祖ハ女親の轉 あり、既ハ注 日許能美岐波和賀美岐那良受
り○待酒、万葉 四ハ為君釀之 待酒とあり、待
と云ふ、饗ら 子意あり、江次
策大臣家大饗 條ハ於并少納
言座、小飲注ハ 謂之符賣とあり
久、膏とあり、即酒 能美岐波ハ、此
御酒者あり、○ 和賀美岐那良 御酒

○古事記標注中卷之下

○三十八

べし、然れ記傳
唐書禮樂志 夜通宇多陀怒斯佐佐此者酒樂
都曇鼓とありて、
之歌也

都曇の字音をりくと云、谷川氏説ふより、然れども類聚國史百八
十、於大野城鼓峰興建堂宇とあり、鼓峰ハ筑前あり、金葉集ハ鼓山とあり、
丹波ハ拾遺集ハ鼓滝とあり、肥後ハ此外諸國ハ然れ地名多う、上代より
鼓ハ由ある地あり、と聞ゆ、我國ハ鼓あり、強説あり、宇須
迹多豆々ハ白み立てて、白傍み立て、是を撃て、歌舞ふ、○宇多比都々ハ
歌ハ乍あり、○迦美祁礼加母ハ釀り、れハものハを省り、○麻比都々ハ
舞ハ乍あり、○許能美岐能ハ此御酒之あり、○美岐能ハ御酒之と打返、歌ハ
○阿夜迹ハ歎息の辞、○宇多陀怒斯佐々ハ記傳ハ轉樂の略み、轉ハ弥進
て、甚しくあらを云、云、佐々ハ上ハ注、如く、此ハ佐々ハ下ハ此
御酒ハ、云、意を合して、見る、○酒樂ハ酒祝ハ、祝ハ延語、紀
傳ハ太子、
惠賀之長江の、**凡帶中津日子、天皇之御年伍拾**
惠賀ハ河内志、**貳歲御陵在河内、惠賀之長江也**

我川ありと云、同郡ハ會爾賀市と云、河内志ハ、惠賀ハ、上代より畧て呼來り
りと見ゆ、此地、上代ハ志紀、古市、丹南の三郡ハ、再ハ、大名あり、今ハ此三
郡ハ、境相接り、然云、此ハ、此ハ、天皇の御陵を、諸陵式ハ、在河内國志紀郡北城
東西二町、南北二町、陵戸一畑、守戸四畑とあり、河内志ハ、在丹南郡岡村と
記せり、又應神天皇の、惠我藻伏の陵を、式ハ、在志紀郡とあり、在古市
郡譽田村と記し、九恭天皇の、惠我長野比、陵を、式ハ、在志紀郡とあり、志ハ、
在志紀郡澤田村と記せり、志紀ハ、志紀ハ、惠我ハ、古市、丹南ハ、涉り、廣う、
然、長江と云、地名、今隱して聞ゆ、紀及式ハ、長野ハ、作り、和名抄志
紀郡ハ、長野郷見、式ハ、同郡長野神社も、見ゆ、これハ、紀の傳ハ、正し、
書紀の紀年ハ、より考ふ、仲哀天皇ハ、在位九年あり、其二月ハ、崩、
一より、六十九年の間、皇后攝政ハ、崩、年ハ、一百歳あり、此六十九年の
間、應神天皇を、太子、又皇太子と、記ハ、傳ハ、此ハ、年ハ、月ハ、記ハ、其御跡
を、襲、狀ハ、平ハ、傳ハ、抑、天皇坐、太子と申すハ、何ハ、對、御
祢ハ、甚、心得、つらく、おも、是ハ、漢學始りて、漢文字を、讀習ひて
の、世とありて、彼支那ハ、女帝と云、その、偶前漢ハ、呂后と云、七、八、年
位ハ、居、り、ど、も、帝、と、云、ま、ま、彼、を、法、則、と、して、大、后、を、も、強、て、攝、政、の、や
う、云、混、ら、し、傳、ハ、一、を、紀、記、其、誤、を、兼、ハ、社、を、あ、ら、め、九、上、代、天、皇、の、御、位、ハ、
先、帝、崩、御、の、後、ハ、即、終、り、て、太、上、天、皇、と、申、す、御、稱、ハ、あ、ら、り、一、也、大、后、崩、御、終、

○古事記標注中卷之下

ふまて、太子六十九歳まで、御位ふり、即ち後をさす。一、我思つた、御母ハ天皇ハ、坐し、更ニ疑ひあり、故ニ摂津風土記にも息長足姫、天皇と傳へ、諸陵式ニ、磐余、推櫻宮御宇、神功皇后と記せり、然云、太后ハ、孝元天皇の御末み、五代も経、後へ、皇親疎し、と云む、後世の御制ふも、五代までハ、皇籍ふ列あり、六七代も、王名を除き、後をさすも、あま、聊論ひあつる處。

○品陀和氣命、坐輕鷲之明宮、治天、下也、此天皇娶品陀真若王、二品陀、以之、女、三柱女王、一名、高木之入、日賣命、次、中日賣命、次第、日賣命、此、女、王、等、之、父、品、陀、真、若、王、者、五、哥、留、之、地、在、明、宮、と云り、明宮、ハ、稱、名、入、撰、津、理、建、都、紀、斗、賣、生、子、者、也、

風土記、豊阿岐羅宮とあり、○品陀真若王の品陀ハ、記傳ハ、河内国品の品陀ハ、住坐るあり、べし、と云、是、上代河内国ハ、品陀と云、地名聞を、此天皇の御陵ハ、古市郡の地を、譽田と書て、コムダと云、是、其ハ、後ハ、呼出たり、此品陀、地名あり、と思、未、思、え、ず、○高木之入日賣、景行天皇の御女ハ、紀ハ、同御名あり、○中日賣命、弟日賣命、惣て字の如し、○五百木之入日子命、上ハ、出、○建伊那陀宿禰、舊事紀ハ、建、猪、種、命、宇、摩、志、摩、治、命、十、二、世、孫、と、あり、○志理都紀斗賣、名義考あり、

○額田大中日賣、和名抄ハ、大和国平郡郡、河内国河内郡、等、額田郡、

り、○大山守命、ハ、下、為、山、海、之、政、と、あり、て、紀ハ、山守部を、定、後、見、返、と、云、其、を、領、後、を、以、て、後、御名ハ、負、後、と、云、○伊奢之真若命、上ハ、同、御名あり、○大原郎女、續紀廿六、車駕、歴、大、原、長、岡、と、あり、即、大、和、国、高、市、郡、あり、地名あり、此地ハ、因、り、御名あり、○高目郎女、記傳ハ、和名抄、石川郡、紺、口、郷、を、引、出、と、あり、然、も、り、ど、し、ハ、聞、也、

○古事記標注中卷之下

中^{ナカ}日^{ツヒ}賣^メ命^{ノミコト}之^ノ御^ミ子^コ、木^キ之^ノ荒^{アラ}田^タ郎^ノ女^メ
ハ快クシク
 次^{ツギニ}大^{オホ}雀^{ササキ}命^{ノミコト}、次^{ツギニ}根^ネ鳥^{トリ}命^{ノミコト}
式^{シキ}ニ^ニ紀^キ伊^イ目^メ那^ナ
 賀^カ郡^ノ荒^{アラ}田^タ神^ノ社^ノ
名^ナ義^ギニ^ニ産^ウ屋^ヤニ^ニ
 之^ノ御^ミ子^コ、阿^ア倍^ベ郎^ノ女^メ次^{ツギニ}阿^ア具^ク知^チ能^ノ、此^{コノ}
鷓^{ササギ}鷄^ニノ^ノ入^イ來^キフ
 字^ジ以^ヨ三^ミ腹^{ハラ}郎^ノ女^メ、次^{ツギニ}木^キ之^ノ菟^ツ野^ノ郎^ノ女^メ
ヲ^ヲ吉^キ瑞^ズト
 次^{ツギニ}三^ミ野^ノ郎^ノ女^メ
テ、名^ナ着^キ存^ゾム
 又^{マタ}娶^{メシ}丸^ワ邇^ニ之^ノ比^ヒ布^フ禮^レ能^ノ、意^イ富^ホ美^ミ之^ノ
又^{マタ}仁^ニ德^{トク}天^{テン}皇^ス元^{ゲン}年^{ネン}紀^キニ^ニ見^ミセ^セル
○根^ネ鳥^{トリ}命^{ノミコト}考^{カウ}ス
○阿^ア倍^ベ郎^ノ女^メ、阿^ア倍^ベハ地^チ名^ナナリ
○大^{オホ}和^ワ志^シニ^ニ十^{ジュウ}市^シ郡^ノ廣^{ヒロ}瀨^セニ^ニ並^ナビ、安^{ヤス}部^ノ村^ノナリ、攝^{セツ}津^ツ志^シニ^ニ東^{トウ}生^{セイ}郡^ノニ^ニ阿^ア部^ノ野^ノ郎^ノ人^ノ是^シ
○阿^ア具^ク知^チ能^ノ三^ミ腹^{ハラ}郎^ノ女^メ、記^キ傳^{デン}ニ^ニ阿^ア具^ク知^チモ、阿^ア波^ハ知^チノ誤^ゴナリ
○菟^ツ野^ノ郎^ノ女^メ、記^キ傳^{デン}ニ^ニ紀^キ伊^イ目^メ、伊^イ都^ト郡^ノニ^ニ宇^ウ野^ノト^ト云^ク地^チナリト云^ク
○三^ミ野^ノ郎^ノ女^メ、式^{シキ}ニ^ニ河^カ内^ノ国^ノ、若^ニ江^ニ郡^ノ御^ミ野^ノ縣^ノ主^ノ神^ノ社^ノナリ
○丸^ワ邇^ニ之^ノ比^ヒ布^フ禮^レ能^ノ、意^イ富^ホ美^ミ之^ノ禮^レ能^ノ意^イ富^ホ美^ミ之^ノ

女^メ紀^キ和^ワ耳^ミ臣^ノ
祖^ソ日^{ニチ}觸^{ソク}使^シ主^ノニ
 女^メ、自^レ比^ヒ至^シ名^ナ宮^{ミヤ}主^ノ、矢^ヤ河^カ枝^エ比^ヒ賣^メ生^シ
作^{サク}事^シ人^ニ丸^ワ邇^ニハ
 御^ミ子^コ、宇^ウ遲^ヂ能^ノ和^ワ紀^キ郎^ノ子^コ、次^{ツギニ}妹^{イモ}八^ヤ田^タ
姓^{セイ}ノ^ノ宮^{ミヤ}主^ノ矢^ヤ
 若^ワ郎^ノ女^メ、次^{ツギニ}女^メ鳥^{トリ}王^ノ、柱^{ハシ}又^{マタ}娶^{メシ}其^{ソノ}矢^ヤ河^カ
河^カ枝^エ比^ヒ賣^メ紀^キニ
 若^ワ郎^ノ女^メ、次^{ツギニ}女^メ鳥^{トリ}王^ノ、柱^{ハシ}又^{マタ}娶^{メシ}其^{ソノ}矢^ヤ河^カ
宮^{ミヤ}主^ノ宅^ノ媛^ノニ^ニ作^{サク}事^シ
 枝^エ比^ヒ賣^メ之^ノ弟^{オト}、袁^ラ那^ナ辨^{ベン}郎^ノ女^メ、生^シ御^ミ子^コ
宅^ノノ^ノ三^{サン}段^{ダン}延^{エン}ニ
 宇^ウ遲^ヂ之^ノ若^ワ郎^ノ女^メ柱^{ハシ}
考^{カウ}ス
○宇^ウ遲^ヂ能^ノ和^ワ紀^キ郎^ノ子^コ、宇^ウ遲^ヂハ山城^ノ国^ノ郡^ノ名^ノ宇^ウ治^チナリ、此^{コノ}地^チニ^ニ由^ユリナリ、下^{シモ}見^ミセ^セル
○八^ヤ田^タ若^ワ郎^ノ女^メ、和^ワ名^ノ抄^{セウ}ニ^ニ大^{オホ}和^ワ目^メ添^{ゼン}下^カ郡^ノ矢^ヤ田^タ
○女^メ鳥^{トリ}王^ノ、紀^キノ^ノ雌^メ鳥^{トリ}皇^ノ女^メニ^ニ作^{サク}事^シナリ、名^ナ義^ギ考^{カウ}ス
○袁^ラ那^ナ辨^{ベン}郎^ノ女^メ、紀^キノ^ノ小^コ麻^マ媛^ノニ^ニ作^{サク}事^シナリ、名^ナ義^ギ詳^{シヨウ}ナリ
○昨^{サク}侯^{コウ}長^{チヨウ}日^{ニチ}子^シ、又^{マタ}娶^{メシ}其^{ソノ}女^メ息^{イキ}長^{チヨウ}真^マ
王^ノ上^ノ不^フ出^デ息^{イキ}
○息^{イキ}長^{チヨウ}真^マ若^ワ中^{チュウ}比^ヒ賣^メ、名^ナ義^ギ上^ノノ^ノ例^{レイ}を
 若^ワ中^{チュウ}比^ヒ賣^メ生^シ御^ミ子^コ、若^ワ沼^{シヨ}毛^モ二^ニ侯^{コウ}王^ノ

○古事記標注中卷之下

や、類聚名義抄、オモヒイ發カク是トシ問シ者ハ、宇ウ遲チ能ネ紀キ郎ロウ爾ニ大山オホヤマ
然シカよはむも、此コノ守ミ命ノ、白シロ愛イ兄ケ子コ、次ツギニ大オホ雀ササキ命ノ、知シラシ天スメラ皇ミコト
記シの例レふあり、所ト問ハシ賜タマハ之ヲ、大オホ御ミ情コハロフ而テ白シロ兄ケ子コ者ハ、既スレ
アヲハニ、と注ナラバ成ナリ人ヒト是コノ無ナク悒ウツク弟オトナル子コ者ハ、未イマダ成ナラ人ヒト是コノ愛ハシキ
よ、つ、文フミ選シ潘ハ爾コニ天スメラ皇ミコト詔ノリヒテ佐サ邪ヤ岐キ阿ア藝ギ之ノ言コトゾ自自佐佐
岳タケ詩シ、發ハツク言コト為ナリ五ゴ音オン如ゴトクニ我ワガ所スガ思オモホ即スレバ詔ノリ別ワカ者ハ、大オホ山ヤマ守モリ
無ナク悒ウツク字ジ鏡キョウ集シユ類レ以レ音オン如ゴトクニ我ワガ所スガ思オモホ即スレバ詔ノリ別ワカ者ハ、大オホ山ヤマ守モリ
紫ムラサキ名ナ義ギ抄セウ等トウ、命ノ為ナリ山ヤマ海ウミ之ノ政マツラフ、大オホ雀ササキ命ノ、執ツク食シ國クニ之ノ
他タをツ、と注ナラバ注ツせり、續ツ紀キ三サン十六ジュウロク不フ都ト々ト半ハン政セイ以レ白シロ賜タマハ宇ウ遲チ能ネ和ワ紀キ郎ロウ子コ、所ト知シ
事コト無ナク宇ウ遲チ能ネ毛モ天アマ津ツ日ヒ繼ツギ也ナリ、故カレ大オホ雀ササキ命ノ者ハ、勿ナラズ違ヒ天アマ
輕カサ云イハ々ト、万マン葉ヤフ十ジュウ

五イ小コ都ト追ツ半ハン許コ皇キミ之ノ命ノ也ナリ
漱ス里リ麻マ勢セイ、あどおろし、無ナク事コトと云イハ、意イ小コ當トクまゝ、記キ傳デン不フ無ナク悒ウツクとよめり、られも恐オソ
とふハ、あゝねど、イアセクモアラジといもざまば平ヒラらふらむを○佐サ邪ヤ岐キ阿ア藝ギ
ハ、雀ササキ吾ガ君キミふて、大オホ雀ササキ命ノをツ持ツて、詔ノリり○山ヤマ海ウミ之ノ政マツラフ、海ウミと山ヤマとのことを掌テと詔ノリる
なま○食シ國クニ之ノ政マツラフハ、知シ食シ國クニふて、天下テンカを云イハ、是コノハ後ノチふらら太タイ政セイ大臣テイジン不フ當トクまゝ、職シヨク
員イ令レイ小コ、師シ範パン一イツ人ニヒト、儀ギ刑ケイ四シ海カイ、經キョウ邦ホウ論ロン道ドウ云イハ々ト、義ギ解ゲふ、佐サ王オウ論ロン道ドウ、以レ經キョウ緯ヰ、國クニ事コトとあり
○白シロ賜タマハ、續ツ紀キ万マン葉ヤフ等トウ不フ例レイおほき語コトふて、政セイ事コトを執ツク行ユクひて、其ソノ由ユを奏ソウせとたり
○越エチ幸キョウハ、大オホ和ワ一イツ時トキ天スメラ皇ミコト、越エチ幸キョウ近チカ淡タン海カイ國クニ之ノ時トキ、御ミ
より山ヤマを越エチて立タテ宇ウ遲チ野ノ上ノ、望ノゾミ葛カ野ノ、歌ウタ曰イハレ、知シ婆バ能ネ
之ノ○宇ウ遲チ野ノハ、山城ヤマシロ国クニ宇ウ治ヂ郡クニの野ノ○葛カ野ノハ、山城ヤマシロ国クニの郡クニ
名ナち、此コノ葛カを字ジ音オン之ノと思オモふ通トウ波ハ母モ美ミ由ユ、久ク爾ニ能ネ富トク母モ美ミ由ユ
り、何ナニも夏ナツ衣イウとく、と係ケり、たも葛カ織オリの切キり、香カト取トリて、地名チノナふ云イハ、我ワら
た々タタ○知シ婆バ能ネハ、契ケ沖ウキが、千チ葉ヤフ之ノみ、着カふらる枕マク詞シ、と云イハり○加カ豆トウ怒ネ表ヒラ

○古事記標注中卷之下 ○四十四

美礼婆ハ葛野を見者之○毛々知陀流ハ百千足あり○夜迹波母美由ハ家庭
も所見あり○久ル能富母美由ハ国之秀も所見ハ秀トハ見是古ハ処を去
○木幡村式ハ山城国宇治郡許波多神社と見也今も木幡村アリ○凡迹之此布礼云々
上ハ見と
○許能迹夜ハ此蟹ヤ夫久此ハ大御饗み献たり蟹を
伊豆久能迹ハ何處之蟹ふむと問試
山意之○毛々

故到坐木幡村之時麗美嬢子遇
其道衢爾天皇問其嬢子曰汝者
誰子答曰白丸通之比布禮能意富
美之女名宮主矢河枝比賣天皇
即詔其嬢子吾明日還幸之時入
坐汝家故矢河枝比賣委曲語其
父於是父答曰是者天皇坐那理
此二字恐之我子仕奉云而嚴飭

豆多布ハ百傳
みて處々を傳
來一意を枕詞
みとるふ一
つり○都奴賀
能迹迹ハ角鹿
之蟹みて越前
目敦賀の海よ
り産せむを云
以上次語を起
さむとの序
之○余許佐良
布ハ横本を延
久是ハ大和
目より横小行
幸終ふを云○
伊豆久尔伊多
流ハ何處不到

其家侯待者明日入坐故獻大御
饗之時其女矢河枝比賣令取大
御酒盞而獻於是天皇任令取其
大御酒盞而御歌曰許能迹通夜
伊豆久能迹通毛毛豆多布都奴
賀能迹通余許佐良布伊豆久通
伊多流伊知遲志麻美志麻通斗
岐美本杼理能迹豆伎伊岐豆岐
志那陀由布佐佐那美遲表須久

○古事記標注中卷之下

るして、設て問
ゆふえの伊知
逢志麻の湖水
小属ちる、嶋ふ
らむと、思へ
ど、今隠きて知
ガと、美志
麻近斗岐、式小
近江国高嶋郡
箕嶋神社あり、
此地久、近を許
ふて、斗岐、速
往の畧、美
本、理能、鴨
鵜之、枕詞
あり、上、通本
柀理とあり、
同鳥、あ、鳥を

須久登、和賀伊麻勢婆夜、許波多
能美知、通阿波志斯、表登、賣宇斯
呂傳波、表陀互呂迦母、波那美波
志比斯那須伊知比、韋能、和通佐
能通表、波都通波、波陀阿可良氣
美志波、通波、通具漏岐由惠、美都
具理能、曾能那迦都通表、加夫都
久、麻肥、通波阿互受、麻用賀岐、許
通加岐多禮、阿波志斯表美那、迦

云、○迦豆岐伊
岐豆岐の、潜息
衝ふて、潜し、
水中、頭を衝
入きて、概し、
ま、を、云、如此
水、入、給、出、て、息、を、衝、給、ふ、り、然、も、ち、り、づ、き、理、あり、其、も、伊、那、那、岐、命、中、瀬
下、迦、豆、岐、概、為、給、ふ、り、お、あ、ト、状、あり、る、を、了、解、す、べ、し、然、し、記、傳、ふ、此、行、幸
も、御、禊、の、し、り、ち、り、む、く、云、あ、り、此、六、句、を、角、鹿、よ、り、海、人、り、蟹、を、持、來、つ、る、
おもむよ、解、ふ、世、の、注、者、ち、も、お、あ、ト、状、ふ、云、る、も、甚、し、き、失、考、あり、熟、思
ふ、づ、考、づ、○志、那、陀、由、布、の、志、那、を、養、や、り、み、た、く、し、り、お、あ、ト、状、を、去、陀、由
布、の、た、ち、り、の、夕、を、略、り、り、り、マ、ニ、く、の、マ、を、畧、き、夜、を、く、の、ナ、を、畧、き、ヨ、ダ
こ、と、去、る、例、あり、万、葉、ふ、大、船、の、ち、を、く、又、天、雲、の、ち、を、く、云、る、物、也、
こ、と、ち、り、動、く、状、ふ、云、ま、ば、小、竹、不、係、り、枕、詞、く、○佐、々、那、美、遲、表、へ、上、り、も、云、
る、如、く、上、代、期、水、の、西、南、を、廣、く、云、一、地、名、あり、欽、明、紀、孝、德、紀、等、不、狹、々、波、天、武
紀、不、篠、浪、今、昔、物、語、不、篠、波、等、不、作、き、人、遲、ハ、路、あり、○須、久、須、久、登、へ、速、ふ、り、意
み、物、語、書、ふ、り、る、状、ふ、用、る、る、お、あ、ト、○和、賀、伊、麻、勢、婆、夜、ハ、朕、幸、者、あり、
夜、ハ、助、辞、あり、是、ハ、近、江、人、水、幡、ハ、幸、を、云、○許、波、多、能、美、知、近、ハ、水、幡、之、道、ふ

く○阿波志斯表登賣の遇、嬢子を延ちりあり、扱此二句を昨日逢ひ居る
嬢子を、今見ればと云、意する、故逢を、と、過去一詞を賜ひ居り○宇斯呂
傳波の、後方者あり夫木集廿六、今も猶心ふ、うら別まうふうらまや
し、人のうらろで、原資王母集、見つゝうらまて、に、うらろで、を、云々
落久保物語一、ゆらめきや、うらろで、を、云々○表陀互呂迎
母の、小指哉、指を立ち、如く、平直なりと云、意する、呂の助辞○波那美波
志の、齒並者あり、志の助辞あり○比斯那須の、如、羨みて、羨を並、ち、如、と、云
り○伊知比韋志の、標井之あり、九恭紀に、到、倭、春、且、食、于、標、井、上、と、あり、即、添、上
郡の地名あり、和、迹、佐、能、迹、表、の、和、珥、坂、之、土、を、あり、神、武、紀、に、和、珥、坂、下、有、居
勢、祝、者、と、も、見、大、志、に、添、上、郡、に、和、爾、村、あり、其、所、の、坂、を、云、あり、按、不、土、中、黛
ふ、よ、ふ、土、を、掘、出、し、あり、み、や、○波都迹波の、初土者あり、上方の土を云、○波陀阿
可良氣美の、膚赤、と、あり、○志波迹波の、下、埴、者、く、下、を、シ、と、云、あり、高倉下
あり、徴と、す、づ、一、○迹、具、漏、岐、由、惠、の、土、黒、き、故、あり、○美都具理能の、三粟之ふ
て、枕詞あり、○曾、能、那、迎、都、迹、表、の、其、中、津、土、を、く、如、此、上、下、の、土、を、棄、り、て、中、ふ
る、土、の、青、色、あり、バ、黛、不、用、の、跡、あり、ふ、よ、と、あり、故、奈、良、の、枕、詞、も、是、より、出、を
り、あり、○迎、夫、都、久、の、頗、傾、衝、の、畧、あり、神、代、紀、に、頗、傾、此、云、歌、予、志、と、此、記、ハ
千、矛、神、の、御、歌、に、宇、加、夫、斯、と、も、あり、頭、を、前、に、傾、伏、を、云、都、久、の、額、衝、の、衝、と、
て、敬、び、を、云、ま、り、幣、の、枕、詞、と、あり、○麻、肥、迹、波、阿、三、受、の、幣、者、不、充、あり、

幣と、礼代の物を云、うらまて、此青土の幣物の、うらめ、充用する物あり、と、
く、然、不、契、冲、も、ト、先、此、二、句、を、思、ひ、う、ね、て、迎、夫、都、久、を、頭、衝、と、て、日、の、頭、不、照
衝、と、云、ま、り、衝、と、の、ま、り、て、照、る、ノ、諾、の、含、る、づ、ま、理、あり、又、麻、肥、を、真、日、と、云、
ま、り、日、不、當、り、て、土、色、の、變、あり、づ、ま、理、あり、且、日、不、肥、の、仮、名、を、用、む、る、例、も、ふ
り、ま、り、何、ま、り、不、れ、用、ぐ、ま、り、附、會、説、あり、○麻、用、賀、岐、の、眉、畫、あり、字、鏡、に、黛、青
黒、色、也、婦、人、黛、眉、黒、色、也、萬、加、支、仲、哀、紀、に、昧、を、麻、用、彈、杖、と、注、し、和、名、抄、に、黛
畫、眉、黒、色、也、和、名、カ、由、須、美、金、葉、集、に、青、黛、畫、眉、眉、細、長、と、云、る、ま、り、を、よ、め、る、は
り、と、ま、り、う、ら、眉、墨、の、いた、づ、ふ、心、ほ、そ、く、も、老、ふ、り、哉、ま、り、あり、マ、ヨ、ビ、キ
も、マ、ユ、ズ、も、麻、用、賀、岐、不、同、ト、く、青、黒、の、土、を、以、て、畫、き、と、見、也、○許、迹、加、岐
多、礼、の、濃、不、畫、垂、み、て、眉、の、端、を、垂、ち、り、状、不、畫、あり、○河、波、志、斯、表、美、那、も、上
不、表、登、賣、と、あり、を、易、て、打、返、し、詔、に、○迎、母、賀、登、も、彼、も、欲、と、み、て、俗、不、ド、ウ、カ
一、て、彼、女、を、欲、し、と、云、意、く、○迎、久、母、賀、登、と、此、も、欲、と、み、て、俗、不、カ、ウ、モ、シ、テ
欲、し、の、意、く、○阿、賀、美、斯、古、迹、の、吾、見、一、子、あり、○宇、多、氣、陀、迹、の、宴、ど、ま、り、て、
拍、上、の、切、あり、其、を、聲、不、揚、て、手、を、拍、ち、あり、陀、迹、の、辞、あり、バ、カ、リ、と、云、不、通、ふ
の、ま、り、を、宴、ま、り、を、つ、り、不、嬢、子、不、對、居、と、く、此、陀、迹、を、ナ、リ、ト、モ、と、云、ふ、も、う、ら
ま、り、ま、り、上、より、云、つ、く、る、不、隨、ひ、意、を、は、は、く、ま、り、ま、り、の、ま、り、扱、ま、の、氣、字、の、
清、音、あり、ま、り、此、の、濁、音、不、用、つ、り、其、を、上、卷、の、九、例、に、云、る、ま、り、ま、り、○牟、迎、比
表、流、迎、母、の、向、居、哉、あり、○伊、獲、比、表、流、迎、母、の、伊、の、發、語、あり、副、居、哉、あり、

伊邪古村母也、能、迦、具、波、斯、波、那、多、知、婆、那、波、本、
率子等也。○怒毘流都美迹、
野蒜摘み、
○比流都美迹、
蒜摘み、按、
小蒜と野蒜と、
別種ちとど、
此の野蒜を打、
返して、比流と、
よ、
山蒜とも、澤蒜とも記し、和名抄に、称比流と注せり。○和賀由久美知能の、吾行、
道之より、此能を紀み、理み作まじり。○迦具波斯の香細く、香との、鼻み白ふの、
ふり、
り、
秀枝みて上枝を云。○登理華賀良斯の鳥居枯まじり。○志豆延葉の、下着枝みて、
下枝より、惣て志豆と、沈垂まじり同意まじりを、下津枝と思ふより、非く、津の、
助辞ふも、濁まじり例まじり。○比登登理賀良斯の人取枯まじり、賀字此記ふに、濁音

能、迦、具、波、斯、波、那、多、知、婆、那、波、本、
都、延、波、登、理、華、賀、良、斯、志、豆、延、波、
比、登、登、理、賀、良、斯、美、都、具、理、能、那、
迦、都、延、能、本、都、毛、理、阿、迦、良、表、登、
賣、表、伊、邪、佐、佐、婆、余、良、斯、那、

不用る例まじり、上は臭韭一莖を、賀美良比登母登と記し、下卷は山峽を、夜麻、
能、賀、比、ともおまじり、此も清てよむ。○美都具理能の、上不見也。○那迦都延、
能の、中津枝之也。○本都毛理の、紀ふ府保語茂理とあり、依て、考ふるに、
籠とみて、橘の蕾たる状を云て、次ふう、此序とす。○阿迦良表登賣表の、
子をみ、良の辞あり、扱阿迦とも、赤色を云るも、常まれど、うち白く目不見也、
又物のきもや、
為玉、是夜莫明、朱引、朝行、公、待、苦、とあり、夜の明るを、朱引といふ、
嬢子の艶らまじりを、橘の白く咲くまじり、然るを記傳をまじり、此阿迦良、
を、橘實の熟して、赤く照たる意も思ひ、嬢子の紅顔もよ、
非あり、花橘とあり、眼を著るべし。○伊邪佐々婆の、率誘者みて、佐々といふ、
サアくと、誘、促、みおまじり、嬢子を寝所み、誘、み、
那、
○美豆多麻流、
水溜りく池、
の枕詞く、○余、
佐美能伊氣能、
依網池之、
て、是ハ河内国、

伊、氣、能、韋、具、比、宇、知、賀、佐、斯、祁、流、
斯、良、邇、奴、那、波、久、理、波、閑、祁、久、斯、

延たるみて、万葉十九、妹之袖和礼枕可牟ともありて、麻久とハ、手ふされ袖
ふはさ、頭を載まら、状を云、別不便、器を作て、枕と云るハ、麻岐座の畧あり、
一首の意ハ、神の如尊く云、一、
壤子ふらあま、容易相寝ま、

○阿良蕪波受、又歌曰、美知能斯理、古波陀表登
ハ、不争あて、我
ハ、背らずの意

○泥斯久、賣波阿良蕪波受、泥斯久表斯叙
ハ、不争あて、我

衰斯叙母ハ、寝
ハ、背らずの意

○宇流波志美意母布也、心愛く思ふあり
○目主ハ、国菓
又、国拙と書レ

又吉野之國主等、瞻大雀命之所
○目主ハ、国菓
又、国拙と書レ

佩御刀、歌曰、本牟多能、比能美古
○目主ハ、国菓
又、国拙と書レ

又吉野之國主等、瞻大雀命之所
○目主ハ、国菓
又、国拙と書レ

意富佐邪岐、意富佐邪岐、波加勢
○目主ハ、国菓
又、国拙と書レ

流多知、母登都流藝、須惠布由、布
○目主ハ、国菓
又、国拙と書レ

由紀能須加良賀志多紀能、佐夜
○目主ハ、国菓
又、国拙と書レ

佐夜
○目主ハ、国菓
又、国拙と書レ

佐邪岐ハ、大雀命を申す、打返一云るハ、歌一調、の儘あり、○波加勢流多知ハ、所
佩太刀あり、○母登都流藝ハ、許、劍みて垂仁紀ハ、左右をモトコトよめ、許、
云、俗ハ、御手許ハ、劍と云、ガゴト、是を次句ハ、起、布由ハ、對て説を作、るハ、非
之、○須惠布由ハ、未振あり、振、布由ハ、古言ハ、通、り、是ハ、劍、未を振と云て、次句を云
起す、序とせり、○布由紀能須ハ、如、冬、本、あり、如、ハ、如、ふて、似、を、似、と云、ふ、あ、ふ、ト、
是亦、括、不、係、る、枕、詞、あり、○加良賀志多紀能ハ、括、之、下、樹、之、ふて、葉、の、落、ち、る、下
ふ、立、並、る、木、等、の、風、ハ、響、く、と云、り、次、ハ、係、る、序、あり、○佐夜
佐夜ハ、記、傳、不、清、々、と云、り、叔、濤、ハ、御、劍、を、美、称、た、る、と云、く

○白檮上の上、又於吉野之白檮上、作横白而、於
ハ、土、の、誤、り、あり、

○古事記標注中卷之下

○五十一

と、和名抄に、安萬無倍とあり、此海部の住地あり、扱此海部の海士等を惣知職あり、紀小阿曇連祖、大濱宿禰云々、為海人之宰とあり、○山部清寧紀云、所領山部とあり、海部に對思ふ、山部入て獵ま、部の宰を定、終る、あり、一、雄略紀云、命、真人、縱獵旁注云、山司と記せり、顯宗紀云、持山官改賜山部、連氏、多あり、山守部を云、あり、一、○山守部ハ、字の如し、續紀五、初、光守山、戶、令禁伐諸山木、○伊勢部考云、一、○飯池ハ、大和國高市郡あり、○百濟池、大和志云、廣瀨郡百濟村、西、廣四百畝とあり、

○照古王、まの、亦百濟國主、照古王、以壯馬壹足、照又王、字を、セ、北馬壹足、付阿知吉師、以貢上、阿此、ウワウ、ふど、よ、の、類、韻、み、て、千、年前、も、照、王、と、直、知、吉、師、者、阿、亦、貢、上、横、刀、及、大、鏡、加、行、の、濁、音、不、韻、一、例、ふ、れ、バ、我、國、有、の、雅、音、不、改、む、一、と、思、へ、ど、世、に、韻、學、弘、く、相、む、却、て、惑、ふ、一、と、思、ひ、姑、後、世、音、不、点、つ、此、照、古、王、ハ、既、神、功、紀、不、見、也、て、百、濟、始、祖、溫、祚、王、と、六、代、目、不、當、り、父、を、蓋、婁、王、と、云、其、子、を、も、又、照、古、王、と、云、一、と、し、東、國、通、鑑、不、見、也、と、云、○阿知吉師紀云、阿直岐とあり、阿知ハ名、よ、て、

吉師ハ彼國の官名あり、北史に見ゆ、我國の尸不、吉士と書たり、吉師より轉、た、る、あり、一、○阿直史、是ハ阿直岐の子孫あり、其祖を慕ひて、姓とせ、一、是ハ阿直とよむ、一、思、ど、今、姑、舊、訓、不、從、云、天、武、十、二、年、紀、云、阿、直、史、賜、姓、曰、連、と、り、

○和迩吉師紀云、王仁ハ作也、又科賜百濟國、若有賢人者、貢上、又、故、受、命、以、貢、上、人、名、和、邇、吉、師、即、論語十卷、千字文一卷、并十一卷、今集の序に見ゆ、付、是、人、即、貢、進、者、文、首、等、祖、又、貢、也、古、ハ、忠、也、一、上、手、人、韓、鍛、名、卓、素、亦、吳、服、西、素、野、郡、藤、坂、村、み、二、人、也、王、仁、の、墓、あり、

と、記せり、○論語、按、漢、風、を、好、む、と、云、一、舍、人、親、王、と、云、一、論、語、千、字、文、等、を、此、御、世、に、貢、り、て、よ、る、を、バ、書、紀、不、淺、一、と、云、一、漢、學、行、ま、れ、る、の、世、に、後、

宇羅宜ハ出雲
風土記ニ宇良
加志とも何れ
記傳ニ心おも
一ろく、浮立意
と云り○迦美
斯美岐近ハ醜
御酒ふちり
○和礼惠比迩
祁理ハ吾醉ニ
クク○許登
那具志モ事
一あり丹後風土記
古注ニ古事平善者
書紀ニ唯樂又歡喜
ハ言語の上ふも音韻
奇上あり予上ふ注
酒而、宇羅宜三
賀、迦美斯美岐通、和禮惠比迩
理、許登那具志、惠具志爾、和禮惠
比、迩祁理、如此之歌、幸行時、以御
杖、打大坂道中之大石者、其石走
避、故諺曰、堅石、避醉人也

名あり○其石走避、景行紀ニ有石長六尺廣三尺云々、厥之
則如柏上於大虛と何れ、御稜威のよふふと仰奉るべし
○弟皇子ハ、宇
山モ、宇邊山を
云○絶垣ハ、今
の幕あり、べし
○帷幕ハ、記傳
ニ後世の帷ニ
も何れ、名義ハ
と云り○舍人
ハ、東宮職員令
ニ、舍人六百八
と何れ、名義ハ
常宿人あり、大
一○兄王ハ、大
山守命あり○
船楫者の者、字

張絶垣、立帷幕、詐以舍人為王露
故聞驚、以兵伏河邊、亦其山之上
即遣使者、令告宇遲能、和紀郎子
設兵將攻、爾大雀命、聞其兄備兵
欲獲天下、有殺其弟皇子之情、竊
於是大山守命者、違天皇之命、猶
之命、以天下讓宇遲能、和紀郎子
故天皇崩之後、大雀命者、從天皇
故、天皇崩之後、大雀命者、從天皇

ハ、記傳亦の誤、ちたべーと云、久、然も何りべー○佐那葛ハ、和名抄、五味を作、祢加豆良と注、せり、同物あり、然ど真の五味子も、皇國も産ず、此ふ云、るハ、南五味子と云、しりふて、是をサ子カヅラとも、ピンレツケカヅラとも云、石見ふてトロ、カヅラと云、日向ふて

坐^{マセテ}吳^{アゲ}床^{ラニ}百^{モノ}官^{ツカサ}恭^{キヤ}敬^ビ往^{ユキ}來^{カフ}之^{サマ}狀^ニ既^{スニ}如^ズ

王^ミ子^コ之^ノ坐^{マス}所^{トコロ}而^テ更^{サラニ}為^{タメニ}其^{ソノ}兄^ア王^{ミコ}渡^{ワタ}河^{カハ}

之^{トキ}時^ニ具^{ソレ}饒^{カガリ}船^{フネ}楫^{カチ}者^{マタ}春^{ハルニ}佐^サ那^ナ

葛^{カヅラ}之^ノ根^ネ取^{トリ}其^{ソノ}汁^{シユ}滑^{ヌル}而^テ塗^{ヌル}其^{ソノ}船^{フネ}中^ノ之^ノ

箒^{ハシ}椅^イ設^{マテ}踏^{フミ}應^{オウ}仆^{タス}而^テ其^{ソノ}王^ミ子^コ者^ハ服^{キテ}布^ヌ

衣^{キヌ}禪^{ハカマ}既^{スニ}為^{ナリテ}賤^{ヤツ}人^ノ之^ノ形^{カタチ}執^{トリ}楫^{カチ}立^{タチ}船^{マゼリ}於^ニ

是^コ其^{ソノ}兄^ア王^{ミコ}隱^{カク}伏^シ兵^{イハサビ}士^{トヲ}衣^{コロモノ}中^ノ服^{キマシテ}鎧^{ヨロヒ}到^{イタリテ}

於^{カハノ}河^ニ邊^{ヘニ}將^{ヤトスル}乘^{ノリ}船^{フネ}時^{トキニ}望^{ミナ}其^{ソノ}嚴^{イカシク}饒^{カガレ}之^ノ處^{トコロ}

以^モ為^{ホシテ}弟^{オト}王^{ミコ}坐^{イマス}其^{ソノ}吳^{アゲ}床^{ラニ}都^ズ不^シ知^シ執^{トリ}楫^{カチ}

フノリカヅラと云、皮を剥、滑、何人、取其汁、滑、あり、み、糞、り、サ子カヅラを、佐那葛と云、るハ、金物を、ナモノ、縮城を、イナキと、云、る例之○箒椅の箒ハ、記傳、み、箒の誤りとして、箒を編、て、船中、小渡、し、歩、む、便、し、す、と云、り、垂、仁、殿、ふ、黒、操、橋、と、も、何、り、黒、字、ハ、考、何、人、彼、處、小、注、つ、○鑑、も、用、言、ふ、ヨ、ロ、フ、と、も、云、て、著、装、ひ、た、り、状、を、云、ふ、り、べ、ー、○時、々、古、今、集、序、み、を、ぐ、ま、た、り、人、も、く、ま、竹、の、世、々、不、聞、き、片、糸、の、よ、り、く、み、た、返、ず、云、々、○往、々、記、傳、ふ、續、紀、八、ふ、往、々、腋、池、廿、四、ふ、京、中、往、々、と、あり、類、之、と、云、る、ふ、從、ふ、但、續、紀、廿、四、の、十、一、丁、ふ、往、々、と、あり、あ、ま、り、訓、ハ、あ、り、○為、取、而、の、而、ハ、雅、言、ふ、よ、も、と、り、が、と、り、れ、バ、よ、ま、す、○渡、到、河、中、を、ワ、タ、リ、テ、河、中、ニ、到、ル、と、よ、

而^テ立^{タチ}船^{マゼリ}即^{トヒ}問^{トス}其^{ソノ}執^{トリ}楫^{カチ}者^{モノ}曰^ク傳^{タガク}聞^ク茲^{コノ}

山^{ヤマ}有^{アリト}忿^{イカレ}怒^{レル}之^ノ大^{オホ}猪^キ吾^{ワレ}欲^{オモフ}取^ラ其^{ソノ}猪^キ若^{モシ}

獲^{エテ}其^{ソノ}猪^キ乎^{ヤトヒ}爾^{コトニ}執^{トリ}楫^{カチ}者^{モノ}答^{マラ}曰^ク不^シ能^ズ也^ト

亦^{マタ}問^{トヒタマハ}曰^ク何^{ナニ}由^ユ答^{マラ}曰^ク時^{トキ}時^{トキ}也^ト往^{トコロ}往^{トコロ}也^ト

雖^{ドモ}為^{スレ}取^{トラス}而^ズ不^エ得^コ是^{コト}以^{モテ}白^{ヤスナリト}不^シ能^ズ也^ト渡^{ワタ}

到^{イタル}河^{カハ}中^{ナカニ}之^{トキニ}時^{シメテ}令^{カタテ}傾^{ソノ}其^{ソノ}船^{フネ}隨^{オトシ}入^{イレキ}水^{ミヅ}中^{ナカニ}

ての歩涉の如聞ゆまば、改つ、又到をイタレルと、よろしくも非
し、記傳ふえ、うゝる語格を乱せり、おと常き人、心してよむべし

○知波夜夫流、爾乃浮出、隨水流下、即流歌曰、知

畧ふて、枕詞、宇遲と係り、波夜夫流、宇遲能和多理通、佐袁

え、續紀廿六、宇治方夜伎時、斗理通、波夜祁牟比登斯、和賀毛

とあり、是めて、綾威と、別語、古通許牟、於是伏隱河邊之兵、彼

ぐ、義、いおふ、廂此廂、一時共興、矢刺而流、故到

業字類抄、廂、字をウチハヤ、訶和羅之前而、沈入、訶和羅三、故

シとよも、遊仙、廂、以鈎探其沈處者、繫其夜中甲而

廂、以鈎探其沈處者、繫其夜中甲而、義、あ、ハ、別、訶和羅鳴、故號其地、謂訶和羅前

考、てむ、○宇遲、能和多理、也

宇治之渡、ふ、○佐袁斗理、速、人、の、意、あり、○波夜祁牟比登斯、ハ、將、速、人、ふ、て、速、うゝ、む、と、云、グ、如、し、所、ハ

助、辞、あり、○和賀毛古迹、許牟、ハ、吾、許、處、小、來、む、○彼、廂、此、廂、ハ、崇、神、段、忌、矢、の

必、小、注、り、○矢、刺、ハ、矢、を、強、小、懸、て、射、む、と、も、云、ハ、状、あり、○訶、和、羅、之、前、ハ、山、城、志

小、綴、喜、郡、ハ、河、原、村、あり、○甲、ハ、ヨ、ロ、ヒ、と、も、訓、べ、れ、れ、ど、崇、神、紀、小、号、其

脱、甲、處、曰、伽、和、羅、と、あり、又、神、武、段、ハ、乘、龜、甲、為、鈎、と、あり、あ、ど、併、見、べ、し

○知、波、夜、比、登、爾、撰、出、其、骨、之、時、弟、王、歌、曰、知、波

ハ、嚴、速、人、あり、枕、詞、之、○和、多、夜、比、登、宇、遲、能、和、多、理、通、和、多、理

理、是、速、ハ、渡、瀬、是、通、多、豆、流、阿、豆、佐、由、美、麻、由、美、伊、岐、良、牟、登、許、許、呂、波、母、閑、杼、伊

ハ、所、植、杼、号、之、杼、ハ、和、名、抄、ハ、楸、之、屬、也、和、名、阿、豆、佐、と、あり、斗、良、牟、登、許、許、呂、波、母、閑、杼、母、登

○古事記標注中卷之下

○五十七

七の古音あまむ、幣岐とよむべし、姓氏録に、日置朝臣、應神天皇皇子、大山守王
之後也と有り、和名抄に、能登国珠洲郡、日置郷、比岐と注せり、按ふ本に日置
りともむを、略して幣岐と傳たりありべし。○榛原君に、遠江国の郡名、養原の
地、不由有り、姓ありべし、是を和名抄に、波伊波良と注せり、音便讀あり
○一二時、記
傳の説に從ふ、**於是大雀命、與宇遲能和紀郎子、**
是に猶もむべ
きやうも、あ
めど、急し思ひ
出ず○因已物
而ハ、記傳不常
云、モノカラと
ハ、異みして、已
り物不用、その
意、と云り、常
のモノカラと
ハ、物あざりを
云、此の而字ハ、

爾兄辭、令貢於弟、弟辭、令貢於兄、
相讓之間、既經多日、如此相讓、非
一二時故、海人既疲、往還而泣也、
故諺曰、海人乎、因已物而泣也、然
宇遲能和紀郎子者、早崩、故大雀

漢又の格以て
書たり、紀ふも
よの字あまむ、
鏡にもあまむ、
の標注ふ云を
見よ、○又昔ハ、
遠、神代を指せ
るふも、阿々べ
し、猶次ふ云を
見よ、此事、垂仁
天皇三年、紀ふ
も、記せき疑
る、又、振津風
土記ふハ、輕嶋
豊阿岐羅宮御
宇の古事と
て、傳へたりも
いぶり○天

命治天下也
又昔有新羅國主之子、名謂天之
日矛、是人參渡來也、所以參渡來
者、新羅國有一沼、名謂阿具奴摩
自阿下四、此沼之邊、一賤女晝寢
於、是日、耀如虹、指其陰上、亦有一
賤夫、思異其狀、恒伺其女人之行、
故是女人、自其晝寢時、姓身生赤

思ふべし、怒て
 此件の古事、
 甚好り、世の
 を傳、ち、く、
 秋山之下氷壯
 夫の、下水、いも
 とづ、色を、云、
 万葉十、金、山、
 舌、目、下、鳴、鳥、と
 ち、
 霞壯夫、秋山
 不對、氣色の
 宜きを、稱、たる、名、あり、
 下、備、奉、云、々、猶、上、下、ろ、ろ、ろ、十訓抄續古事談等、不見也、後世、み、云、上、下、と、い、異
 く、避、と、い、記傳、み、己、が、腹、ち、ろ、を、脱、て、弟、み、與、へ、渡、さ、む、と、云、ち、ろ、と、云、ろ、○身、高
 り、兄、身、の、長、許、の、癩、み、酒、を、釀、む、と、く、○宇、礼、豆、玖、の、宇、礼、ハ、心、み、て、豆、玖、し、償、み
 り、み、の、ツ、グ、を、ヅ、ク、と、清、濁、顛、倒、せ、り、ハ、黃、牛、を、ア、メ、ウ、ジ、夜、降、を、夜、具、多、知、と、云、
 り、が、ぶ、と、く、云、つ、ば、く、ろ、み、隨、ひ、轉、ま、ろ、一、格、く、記傳、み、宇、礼、ハ、慷慨、く、と、云、と、く、
 霞壯夫、秋山、
 不對、氣色の、
 宜きを、稱、たる、名、あり、
 下、備、奉、云、々、猶、上、下、ろ、ろ、ろ、十訓抄續古事談等、不見也、後世、み、云、上、下、と、い、異
 く、避、と、い、記傳、み、己、が、腹、ち、ろ、を、脱、て、弟、み、與、へ、渡、さ、む、と、云、ち、ろ、と、云、ろ、○身、高
 り、兄、身、の、長、許、の、癩、み、酒、を、釀、む、と、く、○宇、礼、豆、玖、の、宇、礼、ハ、心、み、て、豆、玖、し、償、み
 り、み、の、ツ、グ、を、ヅ、ク、と、清、濁、顛、倒、せ、り、ハ、黃、牛、を、ア、メ、ウ、ジ、夜、降、を、夜、具、多、知、と、云、
 り、が、ぶ、と、く、云、つ、ば、く、ろ、み、隨、ひ、轉、ま、ろ、一、格、く、記傳、み、宇、礼、ハ、慷慨、く、と、云、と、く、
 而、釀、甕、酒、亦、山、河、之、物、悉、備、設、爲、
 宇、禮、豆、玖、云、爾、
 自、宇、至、玖、以、
 音、下、效、此、

慷慨ハ、心痛、ま、ろ、を、畧、て、ウ、レ、と、の、く、云、ろ、例、あり、
 是、も、心、み、誓、ひ、て、償、み、を、心、豆、玖、と、い、ろ、み、り、
 ○其、母、も、記傳、
 弟、の、母、み、り、
 異、腹、と、聞、ろ、
 云、ろ、然、も、ろ、
 づ、
 名、抄、み、襪、足、衣、
 也、和、名、之、太、久、
 頭、と、注、せ、ろ、是、
 を、シ、タ、ウ、ツ、と、
 云、ろ、た、音、便、讀、
 みて、答、の、裏、み、
 ち、
 此、み、答、と、ろ、
 襪、み、連、ね、て、
 書、々、の、く、別、
 み、答、と、よ、ろ、て、
 爾、其、弟、如、兄、言、具、白、其、母、即、其、母、
 取、布、遲、葛、而、
 縫、衣、禪、及、襪、沓、亦、作、弓、矢、令、服、其、
 衣、禪、等、令、取、其、弓、矢、遣、其、孃、子、之、
 家、者、其、衣、服、及、弓、矢、悉、成、藤、花、於、
 是、其、春、山、之、霞、壯、夫、以、其、弓、矢、繫、
 孃、子、之、廁、爾、伊、豆、志、袁、登、賣、思、異、
 其、花、將、來、之、時、立、其、孃、子、之、後、入、
 ○古事記標注中卷之下
 ○六十三

懐、神武紀、ハ、ミコトノノミ其屋即婚故生一子也、爾白其兄、コトニ、ミヤク、ソノ、アニ、
 曰、吾者得伊豆志表登賣、於是其、イフ、ワ、ハ、エタリト、コトシ、ラ、ト、メ、チ、ニ、コ、
 兄、慷愼弟之婚、以不償其宇禮豆、ア、ニ、ウレ、タ、ミ、オ、ト、ノ、ア、レ、ラ、テ、ダ、ツ、ク、ハ、ソ、ノ、ウ、レ、
 玖之物、爾愁白其母之時、御祖答、ク、ノ、モノ、カ、レ、ウレ、ヒ、マ、ス、ソ、ノ、ハ、ニ、ト、キ、ミ、オ、ヤ、ノ、イ、
 曰、我御世之事、能許曾、ワ、ガ、ミ、ヨ、ノ、コト、ヨ、ク、ソ、以、レ、音、神、カ、ミ、
 習、又宇都志岐青人草習乎、不償、ナ、ラ、ダ、マ、ツ、シ、ヤ、ア、ラ、ヒ、ト、ク、サ、ナ、ラ、ハ、ヤ、ヌ、ト、イ、ヒ、テ、ツ、ク、
 其物、恨其兄子、乃取其伊豆志河、ソ、ノ、モノ、ウラ、ミ、ソ、ノ、ア、ニ、ル、コ、ラ、ス、大、チ、ト、リ、ソ、ノ、イ、ヅ、シ、ガ、ハ、
 之、河嶋之節竹而作八目之荒籠、ノ、カ、ハ、シ、マ、ノ、ヨ、ダ、ケ、ラ、テ、ツ、ク、リ、ヤ、ツ、メ、ノ、ア、ラ、コ、ラ、
 取其河石、合鹽而裹其竹葉、令詛、ト、リ、ソ、ノ、カ、ハ、ノ、イ、シ、ヨ、ア、ハ、シ、ホ、テ、ツ、ク、ソ、ノ、タ、ケ、ノ、ハ、ニ、ミ、ケ、ラ、ク、ト、コ、

乃布と、よりの
 例、字鏡に見
 巨、ち、人、ツクナ
 フと書ル、り
 非く、神習、ハ
 神の御所為、ハ
 習ふを云、○宇
 都志岐青人草

の名義も、上卷
 ム云、り、○習乎
 ハ、習へ、を、ヤ、ハ
 て、下狀の所行
 小習ひて、其物
 を償、さ、ぬ、と、く
 ○葦竹、公事根
 源、節、折、命、婦
 又、節、を、ヨ、ト
 よむ、例、人、結、體
 紀、ふ、以、矩、美、娜
 開、余、囊、開、と、あ
 久、節、と、節、の、間
 の、甚、長、き、を、云、
 ○八目之荒籠、ハ、彌津、目、み、て、籠の透間の數多きを云、荒籠ハ、字の如、竹取物語
 上、記傳、又、烟ハ、師の加麻度と、訓、ま、ち、ら、み、依、べ、一、民、戸、を、幾、烟、あ、ど、云、も、竈、處
 を、以、て、云、と、云、ら、み、從、ふ、○置、ハ、詛、物、を、置、く、ち、り、○于、萎、病、枯、の、于、ハ、潮、の、如、く

言、如此竹葉青、如此竹葉萎、而青、イ、ハ、ゴ、ト、コ、ノ、タ、ガ、バ、ノ、ア、ラ、ハ、ガ、ゴ、ト、ク、シ、コ、ノ、タ、ガ、バ、ノ、シ、ホ、カ、テ、
 萎、又如此鹽之盈乾、而盈乾、又如此、シ、ホ、マ、タ、ゴ、ト、ク、シ、ノ、ミ、チ、ヒ、ル、ガ、テ、ミ、チ、ヒ、コ、ヨ、マ、タ、
 此石之沈而沈卧、如此令詛置於、コ、ノ、イ、シ、シ、ム、ガ、テ、シ、ム、ミ、コ、ヤ、セ、カ、ク、シ、メ、キ、ト、コ、モ、テ、オ、カ、
 烟上、是以其兄、八年之間、于萎病、カ、マ、ツ、ノ、ウ、ハ、ニ、コ、ラ、モ、テ、ソ、ノ、ア、ニ、ヤ、ト、セ、ノ、ア、ニ、タ、シ、ヒ、シ、ホ、ミ、ヤ、ミ、
 枯、故其兄患泣、請其御祖者、即令、カ、ラ、シ、キ、カ、レ、ソ、ノ、ア、ニ、ウレ、タ、ミ、ナ、キ、チ、コ、ハ、ソ、ノ、オ、ヤ、ニ、ハ、ミ、大、チ、シ、メ、キ、
 返其詛、戸、於是其身如本、以安平、カ、サ、ソ、ノ、ト、コ、モ、ド、ラ、ニ、コ、ノ、ソ、ノ、ゴ、ト、ク、ナ、リ、モ、ト、テ、ク、ヒ、ラ、ギ、
 也、此、者、神、宇、禮、豆、
 也、此、者、神、宇、禮、豆、
 也、此、者、神、宇、禮、豆、

○古事記標注中卷之下

○六十四

乾を云、萎ハ竹葉の如く萎むを云、病ハ石の沈む如く、沈、降を云、枯ハ此三
を惣、ちりく。○詛戸ハ、記傳ハ其物を指て、云と云、う猶考べし、抑詛ハ死、詛と見
ものみて、人を悪く厭ふ業を云、返とい詛を止て、
善キハ厭ふハ厭ハハ善惡ハ涉りて、為る業をいふ

○百師木伊呂 又此品陀 天皇之御子、若野毛二
辨の、百師木ハ 侯王、娶其母弟、百師木伊呂辨、亦
百石城、云て、称、
親む詞、辨ハ女
の轉く。○弟日
賣、真若比賣ハ
字の如し、上ハ
見、返り。○意
冒々、村王、意富
ハ大人、富、村考
あ。○忍坂之
大中津比賣命、
忍坂ハ大和国

女、次取 上 賣王、次沙彌王、七 故意
子、亦名 意富 富村王、次忍坂之大
中津比賣命、次田井之中比賣、次
田宮之中比賣、次藤原之琴節郎
名弟日賣、真若比賣命、生子大郎
又此品陀 天皇之御子、若野毛二
侯王、娶其母弟、百師木伊呂辨、亦
百石城、云て、称、
親む詞、辨ハ女
の轉く。○弟日
賣、真若比賣ハ
字の如し、上ハ
見、返り。○意
冒々、村王、意富
ハ大人、富、村考
あ。○忍坂之
大中津比賣命、
忍坂ハ大和国

城上郡の地名
あり、此女王ハ、
允恭天皇の御
后。○田井之中
比賣、田井ハ和
名抄ハ、河内国
志紀郡田井郷
ありて、河内志
小同郡、田井中
村あり。○田宮
王也

富 富村王者、
三國、波多、
君、坂田、酒
人、君、山道
君、筑紫之米、
多君、又根鳥
王、娶庶
妹三腹郎女、
生子中日子
王、次伊
和嶋王、柱、
又堅石王之
子者、久奴
王也

之中比賣、田宮ハ和名抄ハ、河内国交野郡、田宮郷あり。○藤原琴節郎女、藤原ハ
大和国、高市郡の地名也、此郎女を記傳ハ衣通媛と云、むと云、り、是ハ然也、あり
だま、○取賣王の取ハ、地名云て大和国葛上郡、上鳥下鳥あり、賣ハ女あり、
上声を注し、たりハ、鳥の如くよめと云。○沙彌王ハ、地名云、り、御名考、
あり。○三國君、式ハ越前国、坂井郡三國神社あり、此地ハ依り、姓云、り、べし、天
武十三年、紀ハ、三國公賜姓曰真人とあり。○波多君、波多ハ諸国ハ多、り、地名
云、り、定、ガ、た、り、天武十三年、紀ハ、羽田公賜姓曰真人。○息長君、諸陵式ハ息長
墓、在近江国坂田郡とあり、天武十三年、紀ハ、息長公賜姓曰真人。○坂田酒人君、

諸本不坂君酒人君とあるは、坂君と一姓ハ、姓氏録及史等ニ見込ざれば、記傳
以上の君字を、田ニ改めたり。不従ム、坂田ハ近江国、郡名ナリ、姓氏録ニ、坂田酒
人、真人、息長、真人同祖トアリ。○山道君、山路ト云地名、大和国宇陀郡ニモあれ
ど、攝津志ニ、荒原郡山路莊アリ、詞花集ニ、播磨守ニモアリ、三月廿二日
船より、のり待りり、津、国ヤナリト云、と云々アリ、此地ニ因
ミテ姓アリ、一、天武十三年、紀ニ、山道君賜姓曰真人。○米多君、国造本紀ニ、立
志、米多、国造ト見也、和名抄ニ、肥前国三根郡米多郷アリ。○布勢君、諸国ニ、
新地名多ク、式ニ、近江国伊香郡布勢立石神社アリ、此地ニ、
腹郎女、上ニ見也。○中日子王、字の如ク。○堅石王、和名
抄ニ、筑前国穂波郡ニ、堅磐郷アリ。○久奴王、考アリ。

○壹佰參拾歳、スバテコ、凡此品陀、天皇御年壹佰參拾歳、
紀ニ、一百一十、歳トアリ。○川

御陵在川内、惠賀之裳伏岡也

内惠賀ハ、仲哀、天皇の御陵の処ニ注リ、○裳伏岡、諸陵式ニ、在河内国志紀郡北城東西
五町南北五町、陵戸ニ烟守戸三烟トアリ、今譽田村ニ在リ、人能知ス。

古事記標注中卷之下 終

